

昭和42年度

地力保全基本調査成績

〔佐呂間湖畔地域 佐呂間町〕

北海道立中央農業試験場

18

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和42年度に行なつた9地域12市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課)による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
”	第1係長	小林	荘司
”	研究職員	高尾	欽彌
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰
”	”	伊東	輝行
”	”	坂本	宣崇
”	”	小林	茂

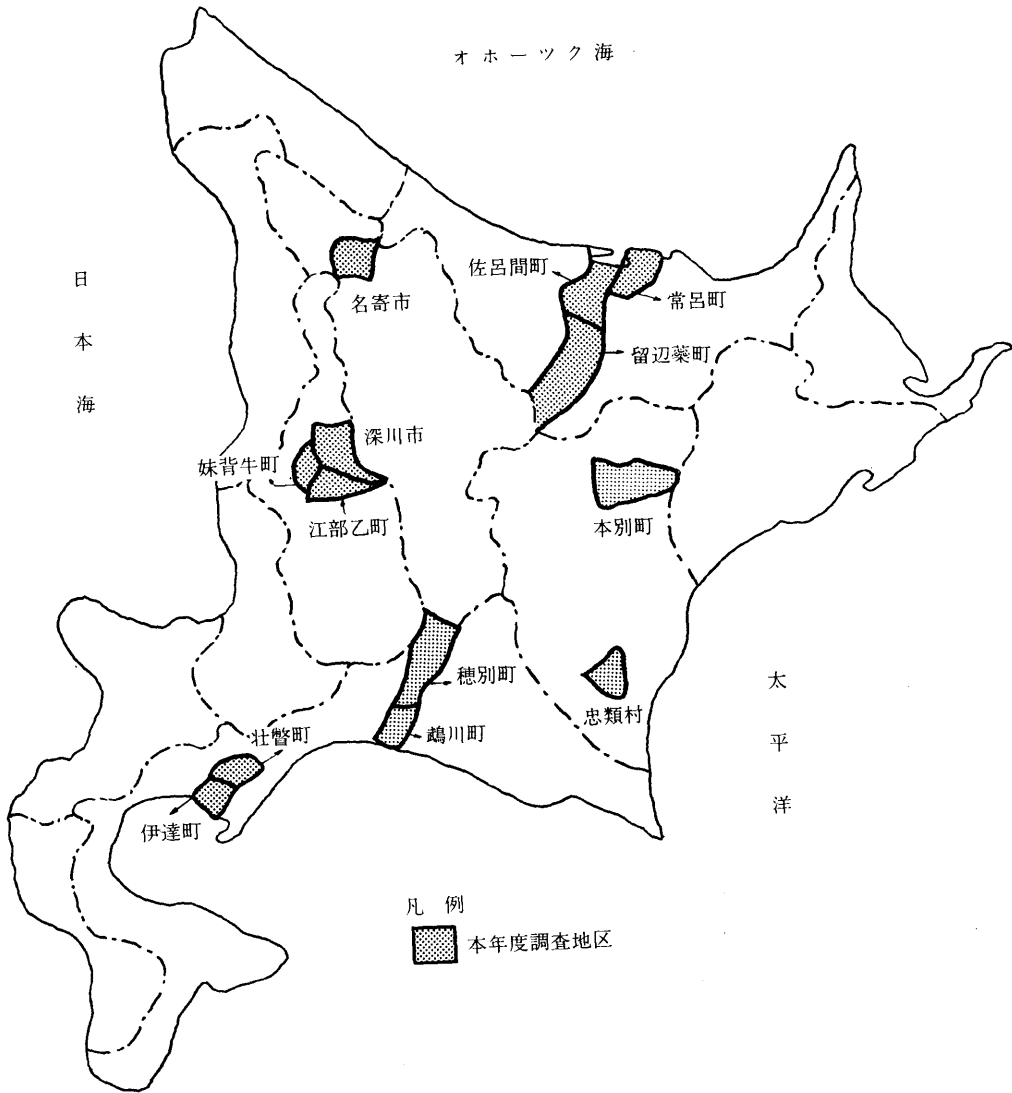
主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
”	木村	清
”	松原	一実
”	上坂	晶司

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	中川郡本別町	108	9,972	—	270	108	9,702
十勝中部	広尾郡忠類町	—	3,688	—	—	—	3,688
佐呂間湖畔	常呂郡常呂町	55	4,335	—	1,223	55	3,112
	常呂郡佐呂間町	808	5,756	808	2,147	—	3,609
北見	常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	—	467	3,605
芦別	深川町	7,377	2,530	2,352	—	5,025	2,530
	空知郡江部乙町	2,380	1,091	175	240	1,590	851
上川北部	名寄市	1,590	4,163	—	2,465	866	1,698
洞爺湖畔	有珠郡伊達町	866	4,873	—	—	260	4,873
	有珠郡壮瞥町	260	1,655	—	—	417	1,655
日高沿岸	勇払郡鶴川町	2,557	768	2,140	—	925	768
日高北部内陸	勇払郡穂別町	1,127	1,007	202	—	—	1,007
空知北部	雨竜郡妹背牛町	3,249	215	—	—	—	—
合計		20,844	43,658	5,677	6,345	11,918	37,098

調査地区位置図



佐呂間湖畔地域 佐呂間町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 網走支庁管内 常呂郡佐呂間町

(2) 調査面積

郡市町村名	農地総面積 (ha)				調査対象面積 (ha)			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
常呂郡佐呂間町	808	5,756	—	6,564	808	5,756	—	6,564

過年度調査面積 (ha)				本年度調査面積 (ha)				次年度以降調査面積 (ha)			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
808	2,147	—	2,955	0	3,609	—	3,609	0	0	0	0

2) 気候

佐呂間町は本道の北東部、オホーツク海に面して存在している。気象の特徴としては水稻栽培の北限に位置し、平均気温6.0℃、夏期はかなり高温に達するが、オホーツク海岸の特徴として気温変動率の高い地帯である。従つて夏期間にかなり低温に終始する年があり、かゝる年には所謂冷害を蒙る場合がある。次に降雨量が極めて少なく年降水量873.3mmであるが、8月中旬より10月初旬にかけて雨量が一般に多く、丁度作物の収穫時期に遭遇し、そのため作物の低収をまねく場合がある。

佐呂間観測所 (1938~1950の平均)

項目		月別									
		4	5	6	7	8	9	10	11		
気	平均	4.6	10.8	15.4	20.0	22.2	16.5	9.7	2.1		
	最高平均	11.1	17.5	21.9	26.0	28.1	22.5	16.2	7.4		
(℃)	最低平均	-2.0	4.0	8.9	13.9	16.3	10.5	3.1	-3.2		
	平均	43.9	61.0	68.5	87.4	96.1	137.6	76.5	59.7		
降水量(mm)	1日最多量	36.0	30.4	47.2	64.3	100.8	110.8	64.0	50.0		

初霜10月1日, 晩霜5月15日

雪: 初日10月30日, 終日5月12日, 積雪量90.0cm

3) 土地条件

(1) 地形

佐呂間川及びその支流が本町における主要な耕地で、河川流域は平坦な低地で上流域は河川が枝分して一般に狭長である。周辺は急峻な山地に囲まれ、低地の両側には扇状土からなる緩傾斜地が分布し、これら低地及び緩傾斜地が主要農耕地に利用されている。

(2) 地質

本町の地質は山地が主として古生層、中生層からなり、河川流域の沖積地及び緩傾斜地の扇状土は何れもこれらを母材とした土壌からなる。また佐呂間川下流域の知床、仁倉には三紀層の凝灰岩土壌が僅

かに分布している。

(3) 侵蝕状況

三紀層の凝灰岩土壌及び扇状地は傾斜地からなり、下層が堅密なところは一般に水蝕が認められるが、全般を通じ軽微な場合が多い。

(4) 交通

本町中心部に湧網線佐呂間駅があり、佐呂間市街よりは佐呂間川に沿って網走市、遠軽町、北見市へ通ずる国道及び道道が発達し、現在かなり路盤が整備されており、またバスの運行もあり、交通は便利である。農家は主としてこれら道路に面して存在し、一部の町道もかなり整備が進められ、自動車などの運行に支障するところは少ない。

4) 土地利用及び営農状況

佐呂間全町の概況は次の通りである。

a) 経営面積(1戸当平均 ha)

総面積	田	普通畑	山林	その他
8.3	0.5	3.5	2.7	1.6

b) 作付面積(1戸当平均 ha)

作物面積	水稲	麦類	雑穀	馬鈴薯	特用作物	飼料作物	その他
	0.44	0.83	0.76	0.30	0.60	0.77	0.30

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	緬羊	鶏
飼養頭数	1,895	2,428	2,716	812	24,953
1戸当頭数	1.2	1.7	1.8	0.5	16.9

d) 労働の関係(1戸当人数)

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
5.8	2.7		

e) 耕種肥培慣行及び収量(Kg/10a)

作物	平均収量	基肥				追肥
		堆肥	硫安	過石	硫加	
水稲	300		11.3~18.8	30~38	7.5~15.0	
小麦	300		7.5~18.8	30~50	7.5~15.0	
大豆	180		5.6~11.3	22.5~26.3	3.8~11.3	
菜豆	180		5.6~11.3	22.5~26.3	3.8~11.3	
馬鈴薯	1,800~2,600	2,000	7.5~18.8	30.0~52.5	15.0~18.8	
ビート	3,500~5,500	2,000	4.0~5.0 チリ硝石			チリ硝石
えん麦	200		7.5	18.8	3.8~11.3	13
牧草	3,000		11.3	-	3.8	
デントコーン	5,000		18.8	30	11.3	

本町は山地が多く、これを侵蝕して流れる佐呂間川及びその支流の流域には沖積地が発達し、その両側に分布する段丘地は主として小規模な扇状地をなしている。農耕の営まれているのは以上のような地域である。従つて農家は佐呂間川及びその支流に沿つて細長く分布し、奥地へ向う程枚分した狭長な分布をなすのが特徴である。

佐呂間川流域の平坦地は稲作が行われ、それ以外の段丘地、傾斜地は専ら畑作が行われているが、一般に1戸当りの経営面積が狭く、水田は自家飯米耕作のものが多く、稲作限界地帯のため凶冷害に見舞われることがしばしばあり、収量は低い。又畑作は経営面積が狭少にもかかわらず栽培作物が多種類に亘り、特用作物だけでもビート、亜麻、薄荷、チソ、それから数種類の薬草が栽培される等、複雑な波状地形による土地利用の不便さと相まつて経営は複雑でありかつ不安定である。

乳牛導入による主畜産経営、中小家畜導入による主畜もしくは混同経営の推進が行われつつあるが、その途上にあり、経営面積の狭少なことが一つの障害となつている。又このことが大型機械化の推進を阻む一因にもなつていると思われる。

調査地区内の状況も同様であり、作付体系の単純化、農地の効率的利用と機械化の推進、及び相当規模の家畜の導入飼養等農業構造改善の実施により安定な経営を確立すべく努力している。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

(水田)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在 する砂層	酸化 沈積物	土 性		泥 炭	黒 泥	グ ライ	母材堆積 様 式
					表 土	次 層				
若 佐 南	YR/YR	表層腐植層 なし	なし	あり	粘 質	粘 質	—	—	—	非固結水成岩積 水 (河成)
若 佐 中央	"/"	"	あり	"	強粘質	強粘質	—	—	—	"
栄	Y/GY	表層腐植層	なし	"	"	"	—	—	60 以下	"
中 園 南	Y/	"	あり	"	"	礫 土	—	—	—	"

(畑)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在 する砂層	酸化 沈積物	土 性		母 材 堆 積	
					表 土	次 層	樣	式
仁 倉 南	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	強粘質	強粘質	非固結水成岩積 洪	
知 来 東	"/"	表層腐植層 なし	"	あり	粘 質	"	"	"
富 丘	"/"	表層腐植層	"	"	強粘質	粘 質	"	"

土壌統名	色層序	腐植層序	礫砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		母材堆積式
					表土	次層	
知来北	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	粘質	非固結水成岩
浜佐呂間	"/"	表層腐植層 なし	"	"	粘質	強粘質	洪積
岐 阜	"/"	表層多腐植層	"	あり	強粘質	"	"
豊 里	"/"	表層腐植層	"	"	"	粘質	固結水成岩混
共 立	"/"	表層腐植層 なし	"	"	"	"	"
富 武 士	"/"	表層腐植層	"	"	"	強粘質	"
若 里	"/"	表層多腐植層	"	"	"	粘質	"
大 成	"/ Y	表層腐植層	"	"	"	強粘質	"
仁 倉 川	"/ YR	表層腐植層 なし	あり	なし	"	粘質	水積 (変成岩混 河成堆積)
知来中央	"/"	"	なし	"	粘質	強粘質	" (")
知来西	"/ -	表層腐植層	あり	"	強粘質	—	固結水成岩 (変成岩混)
佐呂間中央	"/ YR	表層腐植層 なし	"	"	"	粘質	" (")
瑞 穂 南	"/"	"	"	"	"	強粘質	" (")
富 丘 南	"/"	"	"	"	"	粘質	"
仁 倉	"/"	"	なし	あり	"	強粘質	"
仁 倉 北	Y / GY	表層腐植層	"	"	"	"	"
床 丹	YR / YR	表層腐植層 なし	"	"	"	"	"
中 園	"/	表層腐植層	あり	なし	"	粘質	変成岩 水積 (扇状堆土) 固結水成岩, 変成岩
佐呂間北	"/"	"	"	あり	"	"	" (")
幌 岩 北	"/"	"	"	なし	"	強粘質	固結水成岩 (")
瑞 穂 東	"/"	表層腐植層 なし	"	"	粘質	粘質	" (")
佐呂間西	"/"	"	なし	あり	"	"	非固結水成岩 (")
仁 倉 西	"/"	表層多腐植層	"	なし	強粘質	泥 炭	ヨシ シ積

(2) 土壌区一覽
(水田)

土 壌 区 名	簡略分級式	面積 (ha)	備 考
若佐南—若佐南	ll dpfn	442	
若佐中央—若佐中央	ll tp lfn	299	
米 — 米	ll pfn	54	
中園南—中園南	ll dl ll tpi	13	

(畑)

土 壤 区 分	簡略分級式	畑面積 (ha)	備 考
仁倉南—仁倉南	II t p n s e	155	調査面積 260
知来東—知来東	III d w II t p s f n s	233	391
富 丘—富 丘	III d w f II t p n s e	414	696
知来北—知来北	III s II t d p w f n e	74	124
浜佐呂間—浜佐呂間	III d II t p w f n e	523	880
岐 阜—岐 阜	III d p w II t f n i s	93	157
豊 里—豊 里	II t d p w f n s e	111	186
共 立—共 立	III d II t p w f n i s e	63	107
富 武 士—富 武 士	III d II t p w f n i s e	560	942
若 里—若 里	III d w II t p f n i s	624	1,048
大 成—大 成	III w n II t d p f s	167	281
仁倉川—仁倉川	II t d	245	412
知来中央—知来中央	II p	356	598
知来西—知来西	III t d II g p (w) i	134	225
佐呂間中央—佐呂間中央	III d II t p i	327	551
瑞穂南—瑞穂南	II t d p w	19	33
富丘南—富丘南	II t g p	189	317
仁 倉—仁 倉	II t p w	128	216
仁倉北—仁倉北	III w II t p	67	113
床 丹—床 丹	IV w III t f II p n	162	273
中 園—中 園	II t d g p w n s e	375	631
佐呂間北—佐呂間北	III d II t p i s e	392	658
幌岩北—幌岩北	III t d II g p i s	129	216
瑞穂東—瑞穂東	III t d II i s e	48	80
佐呂間西—佐呂間西	III w II p s	39	65
仁倉西—仁倉西	III w II t p f n	129	216

2) 土壤統別説明

水 田

若 佐 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量は4~5%で、土性はOLが主である 色は7.5YRで彩度2、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5内外で疎、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度6のものが多い。角柱状構造を呈し、細小孔を含む。雲状の酸化沈積物に富む。ち密度2.0前後で密、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4で明度5のものが多い。板状及び角柱状構造を呈し、亀裂面に灰色脈を有し、マンガンの斑点状酸化沈積物を含む。ち密度2.5前後で密、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下40~50cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度5のものが多い。均質連結状構造を呈し、亀裂面に灰色脈を有する。ち密度2.9前後で甚密。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡常呂町 試抗₆若10B

第1層	0~15cm	腐植を含む褐灰(7.5YR ⁴ /2)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.5で密, PH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第2層	15~33cm	腐植あり明橙褐(7.5YR6/6)のCL, 角柱状構造, 細小孔を含む。雲状の酸化沈積物に富む, ち密度2.1で密, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	33~42cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のCL, 板状及び角柱状構造, 亀裂面に灰色脈を有しマンガンの酸化沈積物に富む。ち密度2.5で密, PH(H ₂ O)5.5, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	42cm~	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のCL, 均質連結状構造, 亀裂面に灰色脈を有す, ち密度2.9で甚だ密, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	3.0	7.9	31.0	37.4	23.7	CL	2.37	0.23	10	4.1
2	15~33	3.4	8.3	29.3	37.9	24.5	CL	0.38	0.06	7	0.7
3	33~42	0.4	8.8	29.3	37.9	24.5	CL	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.0	0.5	12.7	4.1	1.5	0.2	32.3	680	4.9
2	5.6	4.5	6.2	28.8	20.0	1.5	0.2	69.4	666	tr
3	5.5	4.5	9.8	17.1	7.7	5.0	0.1	45.0	640	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては若佐中央統，佐呂間中央統があるが，何れも母材，堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩風化物及び凝灰質）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高80～100mの略々平坦な低台地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて水田耕作が行われ，一部は畑で馬鈴薯，麦類，牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

水田においては磷酸の増施によつて初期生育の促進を図ることが必要である。

畑地では排水と心土破砕を実施し，磷酸，加里を増施することが必要であり，堆厩肥，緑肥等有機物の施用を図ることが必要である。

F 分布

常呂郡常呂町字若佐の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
若佐南 一 若佐南	dpfn

② 土壌区別説明(水田)

土	表	有	表	耕	湛	酸	土	自	養	障	災																				
壤	効	表	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地										
生	土	土	耘	土	土	土	下	化	離	ラ	地	然	層	分	換	"	"	"	"	量	機	理	冠								
産	土	の	の	風	50	性	酸																す								
力	の	の	の	乾	透	の	還	有	化	イ	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	質	害	の	り		
可	の	層	の	の	粘	土	cm	最	機	鉄	化	乾	沃	基	灰	土	里	酸	素	酸	要	の	障	の	危	危	危	危	險	險	
能	の	磔	土	着	硬	土	密	含	含	含	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度		
性	厚	難	土	着	硬	土	密	含	含	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度	度		
等	深	含	性	性	性	性	度	量	量	度	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度	度		
級	さ	量	易	性	性	性	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性		
	t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a																				
①	II	II	II	2	3	2	1	2	1	II	2	1	II	2	1	II	2	1	2	2	2	-	2	1	I	1	I	1	1		
②	II	II	II	2	3	2	-	-	-	-	II	3	2	3	II	2	1	2	II	2	1	2	2	2	-	2	1	I	1	1	1
簡略分級式	dpfn																														
	① aw tpfn																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は若佐南統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は40～50cmで中庸である。湛水透水性は小さく、グライ化は比較弱いため還元化による水稻根系の障害はない。畑地では透水不良で停滞水を生ずるため一時的過湿のおそれが多い。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸である。畑地では土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い方に属する。作土は有効態磷酸、置換性加里含量がやや低く、下層は磷酸に欠乏し、加里がやや少い。地形は略々平坦で侵蝕のおそれは少く、特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され水稻が栽培され、一部は畑地で馬鈴薯、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水田では初期生育促進のため磷酸を増施し、加里、苦土も増施することが望ましい。

畑地では暗渠排水と心土破碎を実施し、堆厩肥、緑肥等有機物の施用を図り、磷酸、加里を増施することが必要である。

D 分布

常呂郡常呂町若佐の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

若 佐 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外で腐植含量4～5%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2、明度3のものが多い。糸根状酸化沈積物を含む、粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度1.2～1.5で疎、PH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。糸根状の酸化沈積物を含み、色は7.5YRで彩度5、明度5のものが多い。均質連結状構造で、細小孔を含む。ち密度1.6前後で疎、PH(H₂O)5.1～5.5、下層との境界は波状漸変する。

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度6のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度であり、細小孔を含む。雲状の酸化沈積物を含む、ち密度1.6前後で疎、PH(H₂O)5.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はCが主である。未風化細小円礫に富む。色は7.5YRで彩度3、明度6のものが多い。板状構造を呈し、雲状の酸化沈積物に富む。ち密度2.2前後で中、下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表下50cm以下で、円礫を主とするち密層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町啓生 試坑No. 若26

第1層	0～12cm	腐植を含む黒褐(7.5YR3/2)のLiC、発達弱度の細粒状構造、糸根状酸化沈積物を含む。ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
-----	--------	---

第2層	12~30cm	腐植あり灰褐(7.5YR6/6)のLiC, 均質連結状構造, 糸根状酸化沈積物を含む。ち密度1.6で疎, PH(H ₂ O)5.1, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	30~43cm	腐植を欠く明橙褐(7.5YR6/6)のSiC, 発達弱度の細塊状構造, 雲状の酸化物を含む。ち密度1.6で疎, PH(H ₂ O)5.0, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	43~50cm	腐植を欠く灰褐色(7.5YR6/3)のC, 未風化細小中円礫に富む, 板状構造を呈し, 雲状の酸化沈積物に富む, ち密度2.2で中, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第5層	50cm~	未風化円礫層からなる堅密なち密層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地積重 ρ	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	2.6	7.0	20.9	37.7	34.4	LiC	116.1	2.66	2.40	0.24	1.0	4.1
2	12~30	2.1	3.6	11.8	43.4	41.2	LiC	110.4	2.88	0.96	0.10	1.0	1.7
3	30~43	0.7	2.2	8.7	51.0	38.1	SiC	126.3	2.81	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y 1	置換性塩基 me/100g				石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効能 酸 me/100g
	H ₂ O	HCl		CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.5	4.3	7.0	2.18	9.8	2.2	0.3	45.0	1.030	7.4
2	5.1	4.1	25.8	16.8	5.0	1.9	0.2	29.8	1.020	tr
3	5.0	3.9	40.3	19.6	10.1	5.2	0.2	51.5	9.29	tr

A-2 他の土統との関係

本統に隣接又は類似する統としては若佐南統, 佐呂間中央統があるが, 若佐南統とは母材, 堆積様式が異り, 佐呂間中央統は畑地なので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(中生層砂岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 常呂川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800 mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分水稲が栽培されている。一部は畑地に利用されて馬鈴薯, ビート, 麦類, 牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

佐呂間別川流域のいわゆる沖積土で水田土壌として特別の問題点は有しないが, 稲作限界地点に存するため気象的要因に強く支配され冷害凶作を受ける頻度が多いから, 健苗育成, 磷酸増施による初期生育の促進, 気象条件に合致した窒素質肥料の施用等が重要事項となる。

F 分布

常呂郡佐呂間町若佐の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
若佐中央一若佐中央	II t p l f n

② 土壌区別説明

若佐中央一若佐中央

示 性 分 級 式 (水田)

土	表	表	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	自	保	固	土	置	有	微	酸	障	災	
壤	効	効	効	効	下	下	分	離	ラ	地	然	層	分	換	"	"	"	"	"	"	害	理	冠
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	難	着	硬	水	高	機	鉄	化	乾	沃	基	灰	土	里	酸	素	酸	要	の	有	害	
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	i	a												
⑩	II	II	II	II	3	3	2	II	1	2	II	2	2	II	1	1	1	2	2	-	1	2	II
⑪	II	II	II	II	3	3	2	-	-	-	-	-	-	II	1	1	1	2	2	-	1	2	II
簡略分級式	II t p l f n																						

⑩ II t l d p w f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は若佐中央統に属する。作土の厚さは15cm以内で中庸、有効土層は50cm内外でやや深い。表層の土性細粒質で湛水透水性は中庸で、グライ化度弱く還元化による水稲の根系障害は少ない。

畑地の場合は作土層浅く、下層礫層のため有効土層中庸で、透水やや不良のため過湿のおそれがある。保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。作土は有効態磷酸含量がやや低く、他の養肥分は概ね存在する。下層は磷酸が欠乏し、加里がやや少く、酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分水稲が栽培されているが一部は畑地に利用され馬鈴薯、ビート、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水田土壌として大なる問題点はない、磷酸を増施して初期生育の促進を図ることが必要である。気象

的要因が強く冷害凶作を受ける頻度が多いから気象条件に合致した肥培管理，特に窒素質肥料施用に当つては充分なる考慮が必要である。

D 分布

常呂郡佐呂間町若佐の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

栄	統
---	---

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%，土性はLiCが主である。色は7.5Yで彩度1，明度5のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状の酸化沈積物を含む，ち密度3~10で頗る疎，PH(H₂O)5.5~5.8，下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量2~3%，土性はHCが主である。色は5Yで彩度1，明度5のものが多い，角柱状構造を呈し，細小孔を含む。糸根状酸化沈積物に富む。ち密度1.9~2.0で中。PH(H₂O)5.5前後，下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き，土性はLiCが主である。色はNで明度8のものが多い，角柱状構造で，細小孔を含み，雲状の酸化沈積物に富む。ち密度2.0~2.5で中，PH(H₂O)5.1下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き，土性はLiCが主である。色は7.5GYで彩度1，明度5のものが多い。均質連結状構造で，雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.3~2.5で中，PH(H₂O)5.5~5.7。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町上佐呂間試坑 No. 若26B

第1層	0~18cm	腐植に富む黄灰(7.5Y5/1)のLiC，発達弱度の細粒状構造，糸根状の酸化沈積物を含む，ち密度3で頗る疎，PH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第2層	18~35cm	腐植を含む淡黄灰(5Y7/1)のHC，角柱状構造，細小孔を含む，糸根状の酸化沈積物に富む，ち密度1.9で中，PH(H ₂ O)5.5，調査時の湿り湿，境界波状漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く灰白(N8/0)のLiC，角柱状構造，細小孔を含む，雲状の酸化沈積物に頗る富む，ち密度2.3で中，PH(H ₂ O)5.1，調査時の湿り湿，境界波状漸変。
第4層	60cm	腐植を欠く緑灰(7.5GY5/1)のLiC，均質連結状構造，雲状の酸化沈積物を含む，ち密度2.3で中，PH(H ₂ O)5.7，調査時の湿り潤。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 18	3.7	2.1	20.1	37.3	40.5	LiC	3.81	0.38	10	6.6
2	15 ~ 35	4.0	1.5	6.5	27.6	64.4	HC	1.45	0.23	6	2.5
3	35 ~ 60	2.0	2.3	14.9	44.2	38.6	LiC	-	-	-	-
4	60 ~	1.6	3.2	21.8	41.6	33.4	LiC	-	-	-	-

層位	P H		置換 性度 Y 1	塩基量 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和 度 %	磷酸 吸収 係数	有効態 磷酸 mg/100g	幹土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					幹土	湿土	
1	5.8	5.3	1.0	32.8	13.1	4.0	0.3	39.9	1,120	7.1	13.6	20.6	7.0	1.22
2	5.5	4.4	22.1	41.8	13.6	6.8	0.3	32.4	1,475	4.6	0	1.4	1.4	1.97
3	5.1	4.2	120.0	29.9	8.7	6.6	0.1	29.0	938	-	-	-	-	-
4	5.7	4.9	2.0	32.4	11.4	12.3	0.2	35.3	1,120	-	-	-	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては富丘南統，大成統，瑞穂南統等があるが，大成統とは母材，堆積様式が異り，富丘南統，瑞穂南統とは礫層の有無及びグライ化度が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（砂岩，頁岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B地 形 佐呂間別川流域の低平地

C気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C，年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分水稲が栽培されている。

E 農業上の留意事項

土壌的には大なる問題点はないが，稲作限界地帯に属するため気候的要因による影響が大きいため初期生育の促進と成熟促進が必要である。

このため磷酸の増施や気象条件に合致した窒素質肥料の施用が特に考慮されるべきであろう。

F 分 布

常呂郡佐呂間町上佐呂間の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
栄 栄	II p f n

② 土壤区別説明

栄 ー 栄

示 性 分 級 式 (水田)

土	表	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地																
壤	効	土	耘	土	土	土	土	分	離	地	然	層	分	換	効	効	効	効	効	効	効	効																
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土																
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土																
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																
性	厚	難	土	着	の	水	ち	元	含	化	干	沃	基	灰	土	里	酸	素	酸	要	の	危																
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																
t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	i	a																												
ⓐ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	3	3	2	1	1	2	2	2	-	-	-	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	1	1	2	2	2	-	1	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1				
ⓑ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	Ⅲ	3	2	3	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	1	1	2	2	2	-	1	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1

簡略分級式 Ⅱ p f n

ⓐ Ⅱ p w Ⅱ t f n

A 土壤区の特徴

この土壤区は栄統に属する。作土の厚さは18cm内外で中庸，有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で作土下50cmのち密度中庸で湛水透水性は小である。還元化が中庸で地温が比較的高くないため水稻の根系障害のおそれはない。

畑地の場合は下層堅密で難透水層を形成しているため停滞水を生じ排水不良を呈する。保肥力大，磷酸固定力中，土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度はやや中位である。有効態磷酸，置換性加里含量中庸で他の養分は概ね存在する。

地形は平坦で侵蝕のおそれなく，特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

初期生育並びに全般の生育を促進するため磷酸質肥料の増施，気象条件に合致せしめた窒素質肥料の施用が必要である。

D 分布

常呂郡佐呂間町上佐呂間の一部
 記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)
 日付 昭和43年3月31日

中 園 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外で腐植含量9~10%，土性はHCが主である。色は7.5Yで彩度1，明度3のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状酸化沈積物を含む。ち密度10以下で頗る疎，PH(H₂O) 5.5~5.9，下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ5~10cmで腐植を欠き，土性はCが主である。色は5Yで彩度1~2，明度5~6である。均質連結状で糸根状の酸化沈積物を含む，ち密度15~18で疎，下層との境界は波状明瞭である。

第3層は地表下30cm内外以下で未風化小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町中園 試坑No.3

第1層	0~10cm	腐植に富む黄黒(7.5Y3/1)のHC，発達弱度の細粒状構造，糸根状酸化沈積物を含む，ち密度8で頗る疎，PH(H ₂ O) 5.9，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第2層	10~18cm	腐植を欠く黄灰(5Y6/1)のLiC，均質連結状，糸根状酸化沈積物を含む，ち密度15で疎，調査時の湿り湿，境界波状明瞭。
第3層	18cm~	未風化細小中大円礫からなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘度					
1	0~10	1.5	2.7	19.1	28.8	49.5	HC	5.51	0.56	10	9.5

層位	PH		置換酸 度Y1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	5.9	4.9	1.50	33.6	1.7	6.0	0.6	50.8	1,396

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては若佐南統があるが堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形

常呂川支流の武士川流域の低湿地

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃、年間降水量800mm内外。

D 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されているが、一部は低温な原野になっている。

E 農業上の留意事項

礫層が極めて浅いから客土により土層を深めて鋤床を形成することが望ましい。稲作限界地域のため気象的災害が多いから気象条件に合せた品種の選択、初期生育の促進が特に必要である。

F 分 布

常呂郡佐呂間町中園の一部

調査及び記載責任者 高 尾 欽 彌 （北海道立農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中園南—中園南	III dl II t pi

② 土壤区別説明

中 園 南 — 中 園 南

示 性 分 級 式 （水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 厚 深 含	表 土 土 の 粘 土 着 硬 性	表 土 土 の 風 乾 透 性	作 水 下 50cm 高 密 性	易 分 離 酸 性 機 物 含 量 度	遊 グ 地 然 潤 肥 沃 性 度	自 保 固 土 層 分 換 性 態	養 置 有 効 性 量	障 微 酸 性 質 害 障 害 有 害 性	災 物 冠 水 的 害 害 障 害 危 險 無 性 度	地 増 す ベ り の の 危 險 性 度
t d g p	l	r	w	f	n	i	a				
III II III I II 3 2 2	III 1 3	I 2 2 1	III 1 1 2 1	I 1 2 1	I 1 1 1 1 2	- 1 2	II 1 2	I 1 1			
III II III I II 3 2 2					III 1 1 2	I 1 2 1	I 1 1 1 1 2	- 1 2	II 1 2	I 1 1	
簡略分級式 III dl II t pi											
④ III t d II p w i											

A 土壤区の特徴

この土壤区は中園南統に属する。作土の厚さは10cm内外で浅く、有効土層は25cm内外で浅い。下層礫層のため湛水透水性は大であるが、地下水位が高いため減水深は比較的小さい。還元化はやや進んでいるが地温が比較的揚らないため水稻の根系障害は少ない。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は中庸である。作土の養分含量は比較的高い方である。地形は平坦で侵蝕のおそれはないが、礫層極く浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分は水稻が栽培されているが一部は低温な原野になっている。

C 地力保全上の問題点

土層が極めて浅いから客土等により土層を厚くすることが望ましい。磷酸質肥料を増施し、気象条件によつて窒素質肥料の調節することが必要である。

D 分布

常呂郡佐呂間町中園の武士川流域の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(畑)

仁 倉 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量6%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度1のものが多し。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度8~10で頗る疎、PH(H₂O)5.5~6.0、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量1~2%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多し。粒状構造で発達程度は中度で、細小孔を含む。ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.4~5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30~40cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度4~5、塊状構造で発達程度は弱度で角柱状構造も呈す。細小孔を含む、ち密度23~24で中、PH(H₂O)5.5、下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ30~40cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5のものが多し。柱状構造で細小孔を含む。ち密度30前後で甚だ密、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下100cm以下で腐植を欠き土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5のものが多し。均質連結状で細小孔有り、ち密度23~24で中。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町仁倉 試坑No佐11

第1層	0~15cm	腐植に富む黒色(10YR1/1)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度8で頗る疎, PH(H ₂ O)5.7, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
-----	--------	---

第2層	15 ~ 28 cm	腐植を含む暗褐(7.5 YR3/3)のLiC, 発達強度の粒状構造, 細小孔を含む, ち密度20で中, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	28 ~ 65 cm	腐植を欠く褐色(7.5 YR4/6)のLiC, 発達弱度の塊状構造と角柱状構造を呈す。ち密度23で中, pH(H ₂ O) 5.5, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	65 ~ 100 cm	腐植を欠く明褐(7.5 YR5/6)のCL, 角柱状構造, ち密度30で甚だ密, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第5層	100 cm ~	腐植を欠く明褐(7.5 YR 5/8)のCL, 均質連結状, ち密度23で中, 調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘度					
1	0 ~ 15	4.1	4.9	35.1	26.3	33.7	LiC	3.08	0.25	12	5.3
2	15 ~ 28	2.2	5.8	27.9	33.4	32.9	LiC	0.63	0.08	8	1.1
3	28 ~ 65	3.2	4.0	39.6	29.3	27.1	LiC	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.6	1.5	39.8	21.0	2.6	0.4	52.8	1,332	46
2	5.4	4.3	9.5	25.4	6.4	1.8	0.8	25.0	1,186	tr
3	5.5	4.2	11.3	16.3	1.2	1.8	2.2	44.2	1,110	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁倉川統, 仁倉西統, 豊里統があるが何れも母材, 堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高50~70mの緩波状を呈する台地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm内外。

C 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯, ビート, 麦類, 放草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

緩傾斜であるが土壌は耐水蝕性に乏しいので等高線栽培, 緑作帯等水蝕防止対策が必要である。台地上部の平坦面は下層が堅密なので心土破砕が望ましい。土壌は磷酸が少ないので磷酸を増施し, 加里もま

た増施することが必要である。

F 分布

常呂郡佐呂間町仁倉の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
仁倉南 - 仁倉南	II t p n s e

② 土壌区別説明

仁 倉 南 - 仁 倉 南

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 効 土 層 厚 深	表 土 粘 土 性 易 性	耕 土 風 乾 粘 土 着 硬 性 湿	土 透 然 潤 水 肥 沃 性 度	自 保 固 然 肥 沃 力 度	養 置 換 層 的 性 態 量 否	障 害 微 酸 質 障 害 有 害 素 度 無 性	災 害 物 理 的 障 害 危 險 性	傾 地 冠 水 害 的 危 險 斜 度	傾 斜 為 傾 斜 度	侵 入 耐 水 風 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕																
tdgp	w	f	n	i	a	s	e																				
II	I	I	II	3	3	I	1	2	1	I	1	2	1	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	2
簡略分級式 II t p n s e																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は仁倉南統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は1m以上の場合が多く深い。作土の土性は細粒質であるが凝灰質のため粘着性中庸で耕起、砕土はやや困難である。透水性中庸もしくは良好で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、燐酸固定力中庸で、土層の塩基状態はやや良好である。作土は有効態燐酸がやや少く、他の養分は比較的存在するが、下層は燐酸に欠乏し、やや酸性を呈する。地形は緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、麦類、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題

緩傾斜で一部は傾斜の急なところも存在し、土壌は耐水蝕性に乏しいため等高線栽培、緑作帯の設置

等水蝕防止が必要である。燐酸，加里を増施し，堆厩肥，緑肥等有機物の施用を図りつつ漸次深耕することが望ましい。

D 分 布

常呂郡佐呂間町仁倉の一部

記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

知 来 東 統

(1) 土壤等の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～4%，土性はCLが主である。色は10YRで彩度3，明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10前後で疎，pH(H₂O)5.5前後下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度6，明度6のものが多く，細塊状構造で発達程度は中度であり，細小孔に富む。ち密度10前後で疎，pH(H₂O)5.5前後，下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は地表下概ね30～40cm以下で腐植を欠き，土性はCLが主である。色は10YRで彩度2，明度7のものが多い。大角柱状構造を呈し，ち密度30内外で甚だ密である。pH(H₂O)5.5前後。雲状の鉄の酸化沈積物に富み，マンガンの斑状酸化沈積物を含む。また大角柱的亀裂面に灰色の脈状を呈す。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町知来 試坑No佐24

第1層	0～18cm	腐植を含む暗褐(10YR3/3)のCL，発達弱度の粒状構造，ち密度10で疎 pH(H ₂ O)5.5，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	18～33cm	腐植あり明黄褐(10YR6/6)のLiC，発達中度の細塊状構造，細小孔に富む，ち密度18で疎，pH(H ₂ O)5.5，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第3層	33cm～	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のCL，大角柱構造，ち密度30で甚密，雲状の鉄の酸化沈積物とマンガンの斑状酸化沈積物に富む。また大角柱的亀裂面に灰色の脈状を呈す。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘度							
1	0～18	1.3	10.2	34.1	30.8	24.9	CL	95.0	2.86	1.96	0.17	12	3.4
2	18～33	1.7	13.1	30.1	29.3	27.5	LiC	129.6	2.74	0.55	0.07	8	1.0
3	33～	1.2	14.5	27.8	33.2	24.5	CL	167.8	2.63	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KcL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.4	2.0	14.8	7.3	1.3	0.3	49.3	62.6	8.1
2	5.5	4.4	2.5	10.6	7.4	2.7	1.3	69.8	67.3	tr
3	5.4	4.3	3.5	12.9	6.7	4.7	0.2	51.9	66.6	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては知来西統, 仁倉西統, 知来中央統等があるが, 何れも母材, 堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 波状緩傾斜~傾斜を呈する台地。

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯, 麦類, 牧草, 薬草類が栽培され, 他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

下層堅密で透水不良のため排水不良を呈するから暗渠排水を設置し, 同時に心土破砕を実施することが必要である。

磷酸, 加里を増施し, 堆厩肥, 緑肥等有機物を施用して漸次深耕することが必要と思われる。

また傾斜の急なところは一部侵蝕防止を構ずることが望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町知来の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
知来東 - 知来東	dw tpfns

② 土壌区別説明

知来東 - 知来東

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置
生	土	土	耘	土	地	然	層	分	換	"	"
産	土	土	土	土	の						
力	の	の	の	の	風						
可	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩
能	の	の	の	の	粘	土					
性	厚	難	土	着	の	乾	沃	基	灰	土	里
等	深	含	性	さ	性	性	度	力	態	量	"
級	さ	量	易	性	湿	度	度	否	否	素	度
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	2	2	Ⅲ	3	2	3
	Ⅱ	2	1	2	Ⅲ	3	2	Ⅲ	2	1	2
	Ⅱ	1	1	2	Ⅲ	1	1	Ⅱ	2	2	2
	Ⅱ	1	1	Ⅱ	1	1	Ⅲ	1	1	Ⅱ	2
	Ⅱ	1	1	Ⅱ	2	-	-	Ⅱ	1	2	1
	簡略分級式 ⅢdwⅡtpfns										

A 土壤区の特徴

この土壤区は知来東統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸，有効土層は30～40cmで浅い。下層堅密で透水不良のため停滞水を生じて排水不良を呈する。作土の土性中粒質で比較的粘着性強くまた固結し易いため耕起，碎土はやや困難である。

保肥力中，燐酸固定力小，土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度はやや低い。作土は有効態燐酸，置換性加里はやや少く，心土は燐酸に欠乏している。

地形は緩傾斜を呈し，一部傾斜地では侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，麦類，牧草，薬草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水を完全実施し，併せて心土破碎を行うことが必要である。燐酸，加里を増施し，堆厩肥，緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが必要と思われる。

D 分布

常呂郡佐呂間町知来の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

富 丘 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は18～25cmで腐植含量8～9%，土性はL1Cが主である。色は10YRで彩度1，明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5前後で疎，pH(H₂O)6.0前後。下層との境塊は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下で，土性はCLが主である。色は10YRで彩度6，明

度5のものが多い、細塊状構造で発達程度は弱度のものが多く、大角柱状も呈する。細小孔を含む、ち密度23前後で中、雲状の酸化沈積物に富む、pH(H₂O) 5.0~5.0。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表面下概ね45cm以下で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は7.5 YRで彩度3、明度7のものが多い、均質連結状構造を呈す、雲状の鉄酸化沈積物及びマンガンの斑状酸化沈積物を含みまた亀裂間隙は灰色脈を呈す。ち密度20~30で密~甚密。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町富丘 試坑No若10

第1層	0~25 cm	腐植に富む黒色(10 YR 2/1)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度15で疎 pH(H ₂ O) 6.0, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第2層	25~45 cm	腐植あり黄褐(10 YR 5/6)のCL, 発達弱度の細塊状構造と大角柱状構造を呈し, 細小孔を含む, 雲状の酸化沈積物に富む, ち密度23で中, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	45 cm	腐植を欠く灰褐(7.5 YR 7/3)のLiC, 均質連結状で亀裂あり, 雲状の鉄酸化物に富み, 斑状のマンガン酸化沈積物を含む。亀裂面に粘土が流下し灰色化している。ち密度28~30で密~甚密, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~25	2.4	6.4	31.9	35.6	26.1	LiC	4.86	0.36	1.4	9.4
2	25~45	2.0	9.6	28.0	39.2	23.2	CL	0.53	0.05	1.1	0.9
3	45~	2.4	10.7	38.8	24.3	26.2	LiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	0.5	19.6	7.9	1.4	0.4	40.3	2350	4.9
2	5.4	4.0	9.8	22.6	15.4	2.0	0.2	68.1	694	tr
3	5.5	4.0	7.3	11.5	6.0	1.9	0.2	52.2	824	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては富丘南統, 佐呂間西統, 知来東統等があるが, 富丘南統, 佐呂間西統とは母材, 堆積様式が異り, 知来東統とは母材が若干異りまた湿性の程度が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積堆積

B 地形 標高 80 ~ 100m の波状性緩傾斜~傾斜を呈する台地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 前後

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、麦類、牧草、ハツカ等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水と心土破碎を併行して実施すること、堆厩肥、緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行うことが望ましい。燐酸を増加する必要がある。

F 分布

常呂郡佐呂間町富丘、朝日の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 給 式
富 丘 - 富 丘	ⅢdwfⅡtpnise

② 土壌区別説明

富 丘 - 富 丘

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 表表透保湿 保固土 置 有微微 有物 増地 自傾入 侵耐耐	土	土	土	然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
生土 土 土 土 土 地 然 層分換	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
産土 土 土 土 土 地 然 層分換	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
力 の の の 乾の 水水 潤肥 肥定 塩の 石苦 加磷 害質 害の の 傾 傾 蝕蝕	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
司の 層 の の 乾の 水水 潤肥 肥定 塩の 石苦 加磷 害質 害の の 傾 傾 蝕蝕	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
能 の 礫 粘 土 沃 基 灰土 里酸 要 の 危 傾 傾 蝕蝕	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
性 厚 含 乾 土 着 乾 沃 状 豊 含 素 量 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
等 深 性 性 性 性 度 力 力 態 量 素 量 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
級 さ さ 量 湿 湿 度 否 性 性 斜 蝕 蝕	土	土	土	土 地 然 層分換	効 害理 冠す	水 然 斜 為 水風	の 的 害の 傾 傾 蝕蝕
t d g p w f n i a s e							
ⅢⅡⅢⅠⅡⅢ 3 2 2 Ⅲ 3 2 3 Ⅲ 2 4 2 Ⅱ 1 1 1 2 2 1 Ⅱ 1 2 Ⅰ 1 1 Ⅱ 2 - - Ⅱ 2 2 1							
簡略分級式 ⅢdwfⅡtpnise							

A 土壌区の特徴

この土壌区は富丘に属する。作土の厚さは 18 cm 内外で中庸、有効土層は 40 ~ 50 cm で浅い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起、碎土はやや困難である。下層堅密で難透水層を形成しているため

停滞水を生じて一時的に排水不良となる。

保肥力中、燐酸固定力強大で、土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態燐酸がやや少い、下層は燐酸に欠乏し、加里がやや少い。

地形は緩傾斜～傾斜で侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、麦類、牧草、ハツカ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水を実施するとともに心土破砕を併せて実施することが必要である。堆厩肥、緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと及び燐酸を増加することが望ましく、土壤改良、管理不十分なところはこの外石灰を投入し加里も増施することが必要である。

D 分布

常呂郡佐呂間町富丘、朝日の一部

記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

知 来 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量6～7%、土性はLが主である。色は2.5YRで彩度2、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度10～15で疎、pH(H₂O)5.5～5.9、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量1～2%、土性はCLが主である。色は2.6YRで彩度4、明度4のものが多い、細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔を含む、ち密度18～22で中、pH(H₂O)5.3～5.5、下層との境界は波状漸変。

第3層は厚さ20～30cmで腐植を欠き土性はLiCが主である。色は2.5YRで採度6、明度4のものが多い、塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔を含む。ち密度24前後で中、pH(H₂O)5.0～5.5。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね60cm以下で土性はLiCが主である。色は2.5YRで彩度6、明度4のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む、ち密度25～27で密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間知来 試坑No佐4(開拓)

第1層	1～15cm	腐植に富む黒赤褐(2.5YR3/2)のL、発達弱度の粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	15～33cm	腐植あり暗赤褐(2.5YR4/4)のCL、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。

第3層	33~60cm	腐植を欠く赤褐(2.5YR4/6)のLiC, 発達弱度の塊状構造, 細小孔を含む ち密度2.4で中, pH(H ₂ O)5.2, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	60cm	腐植を欠く赤褐(2.5YR4/6)のLiC, 発達弱度の塊状構造, 細小孔を含む ち密度2.6で密, 調査時の湿り湿。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	3.6	3.5	33.8	37.9	9.8	L	3.71	0.27	1.4	6.4
2	15~33	3.7	10.4	39.0	39.1	21.5	CL	1.10	0.08	1.4	1.9
3	33~60	4.7	7.0	31.4	31.2	40.4	LiC	0.41	0.03	1.3	0.7

層位	pH		置換酸 度 y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性 塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.4	1.0	25.0	13.2	2.9	0.6	52.8	69.7	
2	5.3	4.2	19.0	16.1	6.8	3.3	0.2	42.2	70.7	
3	5.2	4.0	13.3	22.1	4.4	3.6	0.1	19.9	91.4	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁倉南統, 佐呂間北統, 仁倉北統等があるが, 仁倉南統とは母材が異り, 佐呂間北統, 仁倉北統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(頁岩風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高80~100mの波状性台地

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm内外。

D 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯, 麦類, 豆類, 牧草その他の飼料作物が栽培されている。他は山林または原野になっている。

E 農業上の留意事項

下層がややち密で透水がやや悪いため一時的に排水不良となる場合があるからかかるところは軽度の排水が必要であろう。

傾斜の急なところは侵蝕のおそれがあるから等高線栽培, 緑作帯等の水蝕防止対策が必要である。堆厩肥, 緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。

F 分 布

常呂郡佐呂間町知来の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
知来北 一 知来北	ⅢsⅡtdpwfne

② 土壤区別説明

知来北 一 知来北

示性分級式 (畑)

土	表	表	耕	(土	(自	(養	(置	(障	(災	(傾	(侵	(耐)		
壤	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	入	侵	耐	
生	土	土	耘	土	の	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	然	為	水	風	耐	
産	土	土	土	の	風	の	性	態	量	物	的	水	へ	り	の	傾	方	傾	方	傾	方	傾	方	耐
力	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	障	の	傾	方	傾	方	耐
能	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	障	の	傾	方	傾	方	耐
性	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	障	の	傾	方	傾	方	耐
等	厚	難	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	耐
級	さ	量	易	湿	度	度	力	力	態	量	奏	度	無	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	耐
	t	d	g	p		w		f		n		i		a		s		e						耐
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	耐
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	耐
簡略分級式 ⅢsⅡtdpwfne																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は知来北統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は1m内外で深い。作土の土性は中粒質であるが粘着性やや強く耕起、碎土はやや困難である。下層はやや堅密で透水がやや悪いため一時的に過湿のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態はやや良好である。作土は磷酸がやや少いが他の養分は比較的的存在する。下層は磷酸、加里が少く酸性を呈する。地形は緩傾斜~傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯、麦類、豆類、牧草その他の飼料作物が栽培されている。他は山林または原野になっている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯等の水蝕防止対策が必要であり、一時的に排水やや不良となるところがあるから軽度の排水が必要である。

堆厩肥，緑肥等の有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。

施肥面では燐酸，加里に置くことが望ましい。

D 分布

常呂郡佐呂間町知来の一部

記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

浜 佐 呂 間 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20 cm内外で腐植含量5%前後で，土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度3，明度4のものが多い，粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13～15で疎，pH(H₂O)6.0～6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～15 cmで腐植含量2%以下，土性はSiCが主である。色は7.5 YRで彩度6，明度4のものが多い。柱状構造を呈し，ち密度24前後で中，pH(H₂O)5.5～5.7。下層との境界は波状漸変。

第3層は厚さ10～15 cmで腐植を欠き，土性はLiCが主である。色は7.5 YRで彩度2，明度7のものが多い。柱状構造を呈し，雲状の酸化沈積物に富む。ち密度25～27で密，下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下概ね40～50 cmで腐植を欠き，土性はHCである。色は7.5 YRで彩度2，明度7のものが多い。柱状構造を呈し，ち密度26～28で密。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町岐阜 試坑46佐24

第1層	0～19 cm	腐植を含む褐色(7.5 YR 4/3)のCL，発達弱度の粒状構造，ち密度13で疎，pH(H ₂ O)6.5，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	19～32 cm	腐植あり褐色(7.5 YR 4/6)のSiC，柱状構造，ち密度24で中，pH(H ₂ O)5.7，調査時の湿り半乾，境界波状漸変。
第3層	32～45 cm	腐植を欠く添褐灰(7.5 YR 7/2)のLiC，柱状構造，ち密度25で密，雲状斑状の酸化沈積物に富む，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第4層	45 cm	腐植を欠く添褐灰(7.5 YR 7/2)のHC，柱状構造，ち密度26で密，調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	1.3	5.3	33.6	40.4	20.7	CL	87.1	2.56	27.6	0.19	-4	4.8
2	19~32	1.7	8.3	18.6	45.4	27.7	SiC	143.0	2.71	-	-	-	-
3	32~45	1.2	5.1	18.0	32.4	44.5	LiC	142.1	2.62	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	K ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.5	0.5	13.6	11.7	1.4	0.1	86.3	666	3.2
2	5.7	4.4	5.0	-	-	-	-	-	600	tr
3	5.4	4.2	8.5	10.5	5.5	4.3	0.2	52.1	714	tr

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接または類似する統としては岐阜統, 仁倉川統, 床丹統等がある, 岐阜統とは腐植含量, 湿性の程度が異り, 仁倉川, 床丹統とは母材, 堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質砂岩風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高30~60mの緩波状を呈する台地

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて牧草その他飼料作物及び馬鈴薯, 麦類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

心土破碎と暗渠排水を併行して実施し, 有機物を施用して漸次深耕して行くことが必要である。施肥面では燐酸, 加里に重点をおくことが望ましい。

F 分 布

常呂郡佐呂間町幌岩の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
浜佐呂間-浜佐呂間	III d t p w f n s

② 土壌区別説明

浜 佐 呂 間 一 浜 佐 呂 間

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 効 率 土 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 効 率 土 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 効 率 土 産 力 の 可 能 性 等 級	透 保 湿	自 然 層 換	養 分 置 換	障 害 物 質 障 害 有 害 性	災 害 物 質 障 害 有 害 性	傾 斜 危 險 斜 向 斜 度	侵 蝕 耐 風 水 蝕 蝕 蝕																										
t d g p	w	f	n				i	a	s	e																										
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	2	2	3	Ⅱ	3	2	2	Ⅱ	1	1	2	Ⅱ	1	1	3	2	2	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅱ	2	-	-	Ⅰ	1	1	1
簡略分級式 Ⅲ d Ⅱ t p w f n s																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は浜佐呂間統に属する。作土の厚さは20 cm内外で中庸，有効土層は40～50 cmで浅い，作土の土性は中粒質であるが固結し耕起，碎土はやや困難である。下層は堅密な不透水層のため停滞水を生じて一時的過湿のおそれがある。

保肥力中，磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態磷酸，加里が少く，下層も磷酸，加里に乏しく，石灰に不足している場合が多く，酸性を呈する場合が多い。地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれは少い。堅密層が浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて牧草その他の飼料作物及び馬鈴薯，麦類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水と併行して心土破碎を重点的に実施することが必要である。傾斜の急なところは侵蝕のおそれがあるから等高線栽培，緑作帯の設置等水蝕防止対策が必要である。

施肥面では磷酸，加里に収点をおくことが望ましい。草地では当初磷酸に重点をおき，草生維持の段階では豆科，菜本科の夫々により加里，窒素を重点にすべきであろう。

D 分布

常呂郡佐呂間町幌岩の一部分

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

岐 阜 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量8～10%，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1，明度3のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13前後で疎，pH(H₂O)5.5～5.9下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下，土性はLiCが主である。色は10yRで彩度1，明度7～8。塊状構造で発達程度は弱度の場合が多い。細孔を含む。斑状の酸化沈積物を含み，ち密度20前後で中，pH(H₂O)5.1前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ15～20cmで腐植を欠き，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1，明度7の場合が多い。大角柱構造を呈し，細小孔を含む。斑状，膜状の酸化沈積物を含み，亀裂面に粘土，腐植が被膜状に流下している。ち密度18～20で中，pH(H₂O)5.0～5.5。下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね45cm以下で腐植を欠き，土性はCLが主である。色は10YRで彩度1，明度7の場合が多い。盤層状を呈し，ち密度30前後で甚だ密で不透水層になつている。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡常呂町字岐阜 試坑46佐26

第1層	0～24cm	腐植に富む黒褐(10YR3/1)のLiC，発達弱度の細粒状構造，ち密度13で疎，pH(H ₂ O)5.9，調査時の湿り半乾，境界直線明瞭。
第2層	24～30cm	腐植を欠く添黄褐灰(10YR6/1)のLiC，発達弱度の塊状構造，細小孔を含む，斑状の酸化沈積物を含む，ち密度20で中，pH(H ₂ O)5.1，調査時の湿り半乾，境界漸変。
第3層	30～45cm	腐植を欠く添黄褐灰(10YR7/1)のLiC，大角柱状構造，斑状の酸化沈積物を含み，構造亀裂面に粘土，腐植の膜状流下が見られる。ち密度18で疎，pH(H ₂ O)5.3，調査時の湿り湿，境界漸変。
第4層	45cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/1)のCL，盤層状を呈し，ち密度30で甚だ密

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～24	2.6	7.0	20.9	37.7	34.4	LiC	4.66	0.38	12	8.0
2	24～30	2.1	3.6	11.8	43.4	41.2	LiC	0.51	0.08	7	0.9
3	30～45	0.7	2.2	8.7	51.0	38.1	SiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	1.3	26.4	13.5	2.4	0.4	51.1	1.030	7.4
2	5.1	3.9	16.3	14.9	4.3	2.3	0.1	28.9	1.020	tr
3	5.3	3.9	15.0	25.3	6.8	5.1	0.2	26.9	92.9	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては浜佐呂間統があるが、腐植層序が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質粘土)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高 ~ mの緩波状を呈する台地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見舞われて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃,年間降水量 800mm内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、ビート、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層堅密なため一時的に停滞水を生じて排水不良を呈するから暗渠排水未実施のところは完全な暗渠排水を実施するとともに心土破碎を併せて実施することが必要である。土壌はかなり有機質を含有するが固結し易い性質を有するから堆厩肥、緑肥等の有機物を施し漸次深耕し、石灰、苦土、加里等の塩基を補給することが望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
岐 阜 - 岐 阜	Ⅱ dpw Ⅱ tfnis

② 土壌区別説明

岐 阜 - 岐 阜

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																													
壤	効	地	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐																	
生	土	土	耘	土	土	の	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風																	
産	土	の	の	風	の	性	態	量	物	的	水	べ	然	斜	為	水	風																						
力	可	の	層	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の																	
能	の	礫	粘	土	の	乾	沃	状	基	灰	土	里	酸	要				有	害	危	危	傾	傾	蝕															
性	厚	難	土	着	硬	乾	沃	状	基	灰	土	里	酸	要				有	害	危	危	傾	傾	蝕															
等	深	含	性	性	さ	性	性	性	力	力	態	量	"	"	"	素	土	無	性	性	斜	斜	度	性															
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	否	性	性	性	斜	斜	度	性	性																							
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e																											
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	2	Ⅱ	3	2	2	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	1	1	2	1	2	2	Ⅱ	1	2	Ⅱ	1	1	Ⅱ	2	-	-	Ⅱ	1	1	1	1
簡略分級式	Ⅱ dpw Ⅱ tfnis																																						

A 土壤区の特徴

この土壤区に岐阜統に属する。作土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層は50cm以内で浅い。下層不透水層のため停滞水を生じて一時排水不良を呈する。土性細粒質で粘着性強く固結し易いため耕起、碎土は困難である。

保肥力、燐酸固定力とも中庸で、土層の塩基状態は未耕地は不良であるが、土壤改良資材の投入されているところは塩基含量が高められて来ているため略中庸の程度を示す。有効態燐酸は耕地では土壤改良資材や施肥により中程度存在するところが多いが、未耕地では欠乏している。傾斜を呈するが水蝕のおそれは少い。有効土層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、ビート、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

下層堅密なため透水不良となつて停滞水を生じ、一時的過湿のおそれが多いから暗渠排水未実施のところは完全な暗渠排水と心土破碎の実施が特に必要であり、また堆厩肥、緑肥等の有機物の施用を行いながら漸次深耕して行くこと。更に石灰、苦土の塩基の施用も必要なことである。草地に対する施肥は当然必要事項となるし、草地造成の場合は土地改良はもとより石灰、苦土等塩基の施用も欠かせない事項である。

D 分布

常呂郡佐呂間町

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

豊 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%, 土性はLiC が主である。色は7.5 YR で彩度4, 明度2のものが多い, 粒状構造で発達程度は弱度で, ち密度1.3~1.5で疎, pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量1~2%, 土性はCL が主である。色は7.5 YR で彩度4, 明度4~5, 未風化, 風化細小中半角礫を含む, 細塊状構造で発達程度は中~強度である。ち密度1.5~1.8で疎, pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き, 土性はCL が主である。色は7.5 YR で彩度4, 明度7のものが多い。大角状構造を呈し, 細小孔を含む, 雲状の酸化沈積物を含み, 灰色斑を含む。ところにより伏流水の湧出あり, ち密度2.3~2.5で中, pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下50~60cm以下で腐植を欠き, 土性はSL~Cの層等一定しない。風化細小中半角礫に頗る富むものが多い。色は7.5 YR で彩度8, 明度5のものも多く, 均質連結状でち密度3.0内外で甚だ密, 鉄, マンガンの酸化沈積物あり。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町豊里 試坑№若15

第1層	0~17cm	腐植に富む黒褐(7.5 YR 2/3)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.3で疎, pH(H ₂ O) 5.5, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
-----	--------	---

第2層	17~33cm	腐植あり灰褐(7.5YR5/4)のCL, 風化細小中半角礫を含む, 発達強度の細塊状構造, ち密度15で疎, pH(H ₂ O)5.5, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	33~55cm	腐植を欠く灰橙(7.5YR7/4)のC, 大角柱状構造, 細小孔を含む, ち密度23で中, 雲状の酸化沈積物と灰色斑を含む, pH(H ₂ O)5.5, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変, 伏流水湧出。
第4層	55cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/8)のSL/C, 均質連結状, ち密度30で甚だ密, 風化細小中半角礫に頗る富む, 鉄, マンガンの酸化沈積物あり, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採用部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17		11.4	26.3	32.8	29.5	LiC	3.85	0.31	12	6.6
2	17~33		13.0	31.0	32.5	23.5	CL	0.86	0.10	9	1.5
3	33~55		-	-	-	-		-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 me/100g
	H ₂ O	KcL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.5	4.5	20.4	9.0	1.2	0.1	44.1	780	7.9
2	5.5	4.3	6.5	15.6	8.5	2.0	0.1	54.5	720	tr
3	5.5	4.2	9.3	19.7	8.0	4.0	0.3	40.6	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては中園統, 共立統があるが, 中園統とは堆積様式が異り, 共立統とは母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩, 変成岩(赤色岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(上部は古い扇状堆積物)

B 地形 標高140~200mの緩波状を呈する台地

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯, ビート, 麦類, 牧草その他が栽培されている。また一部は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

下層堅密で透水悪く, 伏流水の影響強く排水不良を呈するところが多いから傾斜地上部に補水渠を完備し, 必要に応じて暗渠排水を実施する必要がある。一部は水蝕を受けるところがあるから, このよう

なところは緑作帯や等高線栽培を実施して水蝕を防止する必要がある。燐酸，加里の増施が望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町豊里

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 里 - 豊 里	Ⅱ t d p w f n s e

② 土壌区別説明

豊 里 - 豊 里

示性分級式 (畑)

土	表	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵														
壤	効	土	土	土	地	然	層	分	換	”	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐			
生	土	土	土	土	の	地	然	層	分	換	”	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐		
産	土	土	土	土	の	地	然	層	分	換	”	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐		
力	土	土	土	土	の	地	然	層	分	換	”	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐		
可	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	害	の	蝕	蝕		
能	の	粘	土	粘	土	の	乾	沃	基	灰	土	酸	要	の	害	危	危	傾	方	傾	蝕	蝕		
性	厚	難	土	土	の	乾	沃	基	灰	土	酸	要	の	害	危	危	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕		
等	性	性	性	性	力	力	態	量	素	度	無	性	性	性	性	斜	斜	斜	度	性	性	性		
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	斜	斜	斜	度	性	性	性		
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e									
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	2	Ⅱ	3	2	2	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	1	1	3	2	2	2	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	2	Ⅱ	3	2	2	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	1	1	3	2	2	2	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	2	Ⅱ	3	2	2	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	1	1	3	2	2	2	Ⅱ
簡略分級式	Ⅱ t d p w f n s e																							

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊里統に属する。作土の厚さは15~20cmで中庸，有効土層は50~60cmで中庸である。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く耕起，碎土はやや困難である。下層堅密で難透水層を形成しているため停滞水を生じ易くまた伏流水も加つてやや排水不良を呈し，局部的に排水不良を呈す。

保肥力大，燐酸固定力中庸で土層の塩基状態は中庸である。作土は置換性加里含量少く，有効態燐酸置換性苦土含量中庸でやや酸性を呈する。

下層は燐酸，加里が少くやや酸性を呈する。地形は緩傾で侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用され馬鈴薯，ビート，麦類，牧草，ハツカ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

補水渠を完備し、排水不良のところは暗渠排水を実施し、心土破碎を併行することが望ましい。水蝕の発生するところは等高線栽培、緑作帯等の防止対策が必要で、燐酸、加里の増施も望ましい。

C 分布

常呂郡佐呂間町豊里の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~20cmで腐植含量5%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度3のものが多い。未風化、風化細小円礫を含む、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度7のものが多い。未風化、風化細小円礫に富む、細塊状構造で発達程度は弱度である。雲状の酸化沈積物あり、ち密度18~20で疎~中、pH(H₂O)5.5~6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はCが主である。未風化、風化細小円礫に富む、色は10YRで彩度2、明度7のものが多い。角柱状構造を呈し、雲状の酸化沈積物に富む、ち密度20~23で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下概ね40cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。未風化、風化細小円礫を含む、色は10YRで彩度3、明度5のものが多い。均質連結状でち密度30内外で甚密。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町大成 試坑6若6

第1層	0~18cm	腐植を含む黒褐(10YR3/1)のLiC、未風化、風化細小円礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	18~30cm	腐植あり明黄褐(10YR6/4)のCL、未風化、風化細小円礫に富む、発達弱度の細塊状構造、雲状の酸化沈積物あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第3層	30~40cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のC、未風化、風化細小円礫に富む、角柱構造、雲状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度23で中、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第4層	40cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/3)のC、未風化、風化細小円礫を含む、均質連結状、ち密度30で甚密で不透水層、亀裂面に粘土が流下、調査時の湿り半乾~乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	1.8	13.7	27.6	33.1	25.6	LiC	2.70	0.24	11	4.7
2	18~30	1.8	15.0	26.2	38.6	20.2	cL	0.43	0.07	6	0.7

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.3	6.0	18.6	13.9	1.6	0.3	74.7	79.6	11.4
2	5.7	4.1	15.8	18.6	5.8	1.7	0.3	31.2	42.9	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては豊里統，富武士統，富丘統，知来北統その他があるが，何れも母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（中生層頁岩風化物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積（上部は扇状堆積物）

B 地 形 標高100~140mの波状性緩傾斜~傾斜を有する台地。

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm内外。

D 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用されて馬鈴薯，ビート，麦類，牧草その他が栽培される。

E 農業上の留意事項

盤層が浅く，やや排水不良を呈するから心土破砕を実施し，暗渠排水を実施する必要がある。等高線栽培，緑作帯等の水蝕防止も合わせて必要と思われる。

F 分 布

常呂郡佐呂間町字啓生，豊里，大成，共立の山裾部に分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
共 立 一 共 立	d tpwfnise

② 土壌区別説明

共 立 一 共 立

漸変，降雨後は停滞水が見られる。

第3層は地表下概ね40cm以下で腐植を欠き，土性はLiCが主である。未風化，風化細小円礫を含む，色は10YRで彩度6，明度6のものが多い。均質連結状で大亀裂あり，ち密度28～30で密～甚だ密。雲状，斑鉄の鉄酸化沈積物に富み，マンガン斑を含む。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町富武士 試坑No佐3

第1層	0～22cm	腐植に富む黄褐灰(10YR4/2)のLiC，未風化，風化細小円礫を含む，発達弱度の粒状構造，ち密度10で疎，pH(H ₂ O)5.8，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第2層	22～40cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/4)のLiC，未風化，風化細小円礫を含む，発達中度の細塊状構造，細小孔を含む，雲状の酸化沈積物を含む，ち密度18で疎，pH(H ₂ O)5.5，調査時の湿り湿～潤，境界波状漸変。降雨後は停滞水が見られる。
第3層	40cm～	腐植を欠く明黄褐(10YR6/6)のLiC，未風化，風化細小円礫を含む，均質連結状で大亀裂あり，雲状，斑鉄の鉄の酸化沈積物に富み，マンガン斑を含む，ち密度28～30で密～甚密，調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～22	1.7	8.7	32.5	25.0	33.8	LiC	3.70	0.31	12	6.4
2	22～40	1.8	16.3	27.1	29.5	27.1	LiC	0.62	0.08	8	0.6

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.7	1.5	17.9	8.2	1.9	0.3	45.8	1.470	4.9
2	5.5	4.4	5.0	10.2	4.1	1.3	0.2	11.0	52.6	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては富武士中央統，幌岩北統，佐呂間北統等があるが，富武士中央統，幌岩北統は堆積様式が異り，幌岩北統とは母材，堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩，変成岩混(砂岩及び赤色片岩風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(上部は扇状堆積物)

B 地形 標高80～120mの緩傾斜～傾斜地。

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、麦類、ビート、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水と心土破碎とを併行して実施することが必要で、この場合伏流水が加わるところは斜面上部に補水渠を設置し、心土破碎孔の末端は浸透水が容易に排除されるようにすべきである。

傾斜の急なところは特に緑作帯、等高線栽培等の水蝕防止対策が必要である。堆厩肥、緑肥等有機物の施用を図りつつ漸次深耕して行き、燐酸、加里を増施すること等が必要と思われる。

D 分布

常呂郡佐呂間町富武士の大部分

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

若 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cmで腐植含量10%内外、土性はLiCが主である。未風化、風化細小中半角礫を含む、色は10YRで彩度1、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度15~18で疎、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量1~2%、土性はCLが主である。風化、腐朽細小礫に富み、色は10YRで彩度4、明度5~6、発達弱度の細塊状構造と角柱状の複合構造を呈す。細小孔を含む雲状の酸化沈積物を含み、ち密度23~25で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下30~40cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。風化腐朽細小半角礫に富む、色は10YRで彩度4、明度7のものが多い。均質連結状で亀裂あり、雲状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度30内外で甚だ密。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町若里 諸坑No若4.

第1層	0~22cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のLiC、未風化、風化細小中半角礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿境界平坦明瞭。
第2層	22~35cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/4)のCL、風化、腐朽細小半角礫に富む、発達弱度の細塊状と角柱状の複合構造、細小孔を含む、雲状、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度23で中、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第3層	35cm	腐植を欠く灰黄橙(7.5YR7/4)のCL、風化、腐朽細小半角礫に富む、均質連結状亀裂あり、雲状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度30前後で甚密、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	3.3	2.3	29.2	32.3	36.2	LiC	7.87	0.66	12	13.6
2	22~35	1.7	16.8	24.3	37.0	21.9	CL	0.74	0.10	7	1.3
3	35~	2.5	10.9	25.7	38.6	24.8	CL	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.5	2.5	40.0	18.1	4.2	0.3	45.4	1.340	2.1
2	5.6	4.1	10.3	22.9	9.9	0.3	0.2	43.3	7.55	tr
3	5.5	4.0	15.0	29.0	8.5	1.3	0.1	29.2	6.80	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接したまたは類似する統としては床丹統，富武士統，共立統，豊里統等があるが，床丹統とは堆積様式が異り，富武士，共立，豊里各統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩，固結水成岩混（中生層頁岩及びその風化物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積（古い扇状堆積物と思われる）

B 地形 標高60～100mの波状性緩傾斜～傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。
年平均気温5.6℃，年間降水量800mm内外。

D 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，ビート，麦類，牧草その他の飼料作物が栽培されている。他は殆んど山林になつて
いる。

E 農業上の留意事項

心土破碎と暗渠排水を併行して実施することが必要で，この場合伏流水の影響を強く受けるところは
斜面上部に捕水渠を設し，心土破碎孔の末端は浸透水が容易に排除されるようにすることが必要である。
傾斜の急なところは水蝕が発生するから等高線栽培，緑作帯設置等防止対策を要する。
磷酸，加里を増施することが大切である。

F 分布

常呂郡佐呂間町床丹，若里の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
若 里 一 若 里	dw tpfnis

② 土壌区別説明

若 里 一 若 里

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2~3%, 土性はLiCが主である。風化細小半角礫に富む, 色は2.5Yで彩度2, 明度5のものが多し。細塊状構造で発達程度は弱度であり, 細小孔に富む。ち密度1.8前後で疎, pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15~20cmで腐植を欠き, 土性はLiCが主である。風化細小半角礫を含む, 色は2.5Yで彩度2, 明度7のものが多し。大角柱状構造を呈し, 雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.2~2.3で中, pH(H₂O) 5.0-5.5。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ30cm内外で腐植を欠き, 土性はLiC~HCである。色は5Yで彩度2, 明度7~8均質連結状で孔隙なし, 雲状の酸化沈積物を含む。ち密度2.3~2.4で中, 下層との境界は波状漸変する。

第5層は地表下70~80cm以下で腐植を欠き, 土性はCL~Cである。色は10YRで彩度3, 明度7のものが多し。均質連結状を呈し, ち密度3.0~2.8で密~甚密である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町大成 試坑No若10D

第1層	0~16cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のLiC, 風化細小半角礫を含む, 発達弱度の粒状構造, 細小孔に富む, ち密度1.8で疎, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第2層	16~25cm	腐植を含む黄褐灰(2.5Y5/2)のLiC, 風化細小礫に富む, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度1.8で疎, pH(H ₂ O) 5.4, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	25~38cm	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y7/2)のLiC, 風化細小半角礫を含む, 大角柱状構造, ち密度2.2で中, pH(H ₂ O) 5.3, 雲状の酸化沈積物を含む, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	38~75cm	腐植を欠く淡黄灰(5Y8/2)のHC, 均質連結状, ち密度2.3で中, 調査時の湿り湿, グライを呈す, 境界波状漸変。
第5層	75cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/2)のC, 均質連結状でち密度3.0で甚密, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~16	2.7	6.1	31.1	30.1	32.7	LiC	3.97	0.41	10	6.8
2	16~38	2.1	11.9	22.3	34.3	31.5	LiC	1.37	0.18	8	2.4
3	38~55	2.3	4.7	23.7	37.4	34.2	LiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.5	0.5	37.4	19.5	0.3	0.1	52.1	840	5.1
2	5.4	4.1	9.8	25.6	7.3	1.0	tr	28.5	674	2.0
3	5.3	4.0	15.3	22.0	7.1	2.6	0.1	32.3	655	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては佐呂間中央統，共立統等があるが，佐呂間中央統とは堆積様式が異り，共立統とは母材，堆積様式は類似するが，湿性の程度及び有効土層が異なるので夫々区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（中生層頁岩風化物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積（上部は扇状堆積物）

B 地形 標高140～180mの緩傾斜を呈する河成段丘。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用されて馬鈴薯，麦類，ビート，牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水を完全に実施することが必要である。強粘質で堆積やや密なため土壌中の水浸透は緩慢にしか行われぬ傾向があるから渠間を密にするか，心土破碎を補助的に実施するか等排水の促進が必要となる。

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと，施肥面では燐酸，加里，苦土を増施することが望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町不成，共立の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
大 成 一 大 成	ⅡwnⅡtdpfs

② 土壌区別説明

大 成 一 大 成

示 性 分 級 式（畑）

土表有表耕	表表表土	透保湿	自保固土	養置	有微酸	障有物	災増地	傾自傾人	侵耐耐
壤	効土	土	土	然	層分換	効	害理冠す	斜	水風
生土	土	土	の地		の性	態量	物的水べ	然為	蝕
産力	土	の風					害質害のり	の蝕	
可の層	のの乾	水水潤肥定塩	石苦加燐	基灰土里酸要	の害	障	危危傾方	蝕蝕	
能の礫	土着	硬乾	沃	状豊含	有	害	險		
性厚	深含	性性さ	性性性	力力態量	素度無性	度度斜向斜	度性性		
等	数さ	量易	湿	度	否	性	性斜蝕		
	tdgp	w	f	n	i	a	s e		
	ⅡⅡⅡⅢ	Ⅲ322	Ⅲ323	Ⅱ122	Ⅲ133221	Ⅰ11	Ⅰ11Ⅱ2--	Ⅰ111	
	簡略分級式 ⅡwnⅡtdpfs								

A 土壤区の特徴

この土壤区は大成統に属する。作土の厚さは16~20cmで中庸、有効土層は80cm内外で中庸、作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起、砕土はやや困難である。保水性大、透水不良で過湿のおそれが多い。

保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態燐酸含量やや低く、置換性加里、苦土含量は低い。下層は燐酸、置換性塩基ともに低くやや酸性を呈する。地形は緩傾斜で侵蝕のおそれは少く、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、ビート、麦類、牧草その他の飼料作物が栽培され、一部は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題

暗渠排水を完全にし、補助的に心土破碎を実施することが望ましい。有機物を施用しつつ漸次深耕して行くこと、石灰、加里、苦土の塩基を充分補給するとともに燐酸を増施することが必要と思われる。

D 分布

常呂郡佐呂間町大成、共立の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

仁 倉 川 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量3~4%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度3~4、粒状構造で発達程度は中度である。ち密度10~15で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量1~2%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度はやや強度であり、細小孔に富む。ち密度15~18で疎、pH(H₂O)6.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植を欠き土性はLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。ち密度10~5で疎、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下40~50cm以下で、腐植を欠き未風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町仁倉 試坑No佐43B

第1層	0~22cm	腐植を含む暗褐色(7.5YR3/4)のLiC, 発達中度の粒状構造, ち密度10で疎, pH(H ₂ O)6.2, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	22~35cm	腐植あり褐色(7.5YR4/4)のCL, 発達強度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度15で疎, pH(H ₂ O)6.6, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。

第3層	35~48cm	腐植を欠く褐色(7.5 YR4/4)のL, 発達中程度の細塊状構造, ち密度1.0で疎, 調査時の湿り半乾, 境界波状明瞭
第4層	48cm	未風化細小中円礫からなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗成	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	2.3	7.6	38.0	26.2	28.2	LiC	1.86	0.23	8	3.2
2	02~35	2.2	8.9	48.5	24.3	18.3	CL	0.68	0.10	7	1.2

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.3	31.9	26.0	4.6	0.7	81.5	1,140	28.7
2	6.6	5.2	0.5	28.4	23.4	5.1	0.2	82.4	1,245	10.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁倉南統, 富武土統, 仁倉北統, 仁倉統等があるが, 仁倉南統, 富武土統とは堆積様式が異り, 仁倉北統とは母材, 乾湿が異り, 仁倉統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(赤色砂岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 佐呂間別川支流の低平地。

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて畑には馬鈴薯, 豆類, 麦類, ビート, ハツカ等が栽培され, 一部は水田になっている。

E 農業上の留意事項

特殊な問題点はない, 堆厩肥, 緑肥等有機物を施用しつつ漸次深耕して行くことが望ましい。一部地表から礫が多く出現し, また礫地が存在するからかかるところは客土等が望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町仁倉の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
仁倉川 - 仁倉川	IItd

② 土壤区別説明

仁倉川 - 仁倉川

示性分級式 (畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵										
壊	効	土	土	土	透	保	固	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐
生	土	土	土	土	然	層	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風		
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	層	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	石	舌	加	燐	害	質	障	害	の
能	の	礫	土	土	粘	土	乾	沃	基	灰	土	里	酸	要	の	害	危	危	傾	傾
性	厚	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度
等	深	含	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度
級	さ	量	易	湿	度	度	否	性	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e									
	II	II	I	I	3	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	I	1	1
	簡略分級式 IItd																			

A 土壤区の特徴

この土壤区に仁倉川統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で概ね中庸である。作土の土性は細粒質であるが耕起、砕土はやや容易である。透水性大で保水性中庸、過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多い、下層の養分含量も比較的ある。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、豆類、麦類、ハツカ等が栽培され、一部は水田耕作が行われている。

C 地力保全上の問題点

特殊な問題点はない、堆厩肥、緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。局所的に礫地が存在するがかかるところは客土を実施し有機物を施用することが望ましい。

D 分布

常呂郡佐呂間町仁倉の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

知 来 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量2~3%, 土性はOLが主である。色は7.5 YRで彩度3, 明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は中度である。

ち密度1.2~1.5で疎, pH (H₂O) 6.0~6.5, 下層との境界は平坦明瞭

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2~3%, 土性はLiCが主である。色は7.5 YRで彩度2, 明度4のものが多い, 粒状構造で発達程度はやや強度である。ち密度2.0前後で中, pH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き, 土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度5, 明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度である。

細小孔に富む, ち密度2.0前後で中, pH (H₂O) 6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下60~70cm以下で腐植を欠き, 土性はS~sLである。色は7.5 YRで彩度4, 明度5のものが多い。単粒構造でち密度1.5~1.8で疎。

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	1.0	3.7	40.0	37.0	19.3	CL	110.5	2.87	1.28	0.19	7	2.2
2	23~33	2.3	0.4	28.9	43.9	26.8	LiC	123.1	2.57	1.57	0.13	1.2	2.7
3	33~65	2.7	4.6	40.9	37.0	17.5	CL	103.3	2.87	-	-	-	-

層位	pH		置換性 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.6	0.3	30.0	21.0	2.7	0.2	69.9	99.0	27.1
2	6.2	5.3	0.3	36.3	25.1	7.7	0.1	69.1	1,225	10.2
3	6.1	5.2	0.5	29.7	20.8	2.6	0.2	70.0	1,090	6.6

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接または類似する統としては佐呂間北統, 知来東, 仁倉北統, 仁倉統等があるが佐呂間北統, 知来東統とは堆積様式が異り, 仁倉北統とは乾湿が異り, 仁倉統とは土性が異り, 堆積時期に差があるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩 (砂岩風化物主)

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地 形 佐呂間別川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、豆類、麦類、ハツカ、ニンニク等栽培作物は多種類にわたっている。一部は水稲が栽培されている。

E 農業上の留意事項

特殊な問題点はない、有機物を施用しつつ漸次深耕することが望ましい。
局所的に礫地、礫質地が存在する、かかるところは客土や重点的な有機物施用が必要であろう。

F 分布

常呂郡佐呂間町市街地から知東、仁倉に至る佐呂間別川の流域
調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
知来中央-知来中央	II p

② 土壌区別説明

知 来 中 央 - 知 来 中 央

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	傾	自	傾	入	侵	耐	耐	
生	効	土	耘	土	土	の	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	然	為	水	風		
力	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	石	舌	加	燐	害	質	害	の	の	の	蝕				
能	の	礫	粘	土	の	乾	沃	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕			
性	厚	難	土	着	硬	性	性	性	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性
等	深	含	性	性	さ	湿	度	度	否	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e														
II	I	I	I	II	2	2	2	I	1	2	1	I	1	2	1	I	1	1	2	1	1	1	I	1	1
簡略分級式 II p																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は知来中央統に属する。作土の厚さは20~30cmでやや深い。作土の土性は中粒質、粘着性中庸~やや強く耕起、碎土はやや困難である。透水性良好、保水性中庸で過湿、過干のおそれ是一般に少ないが、局所的に分布する礫質地や礫地では過干のおそれがある。

保肥力大、燐酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性加里やや少く、他の養分は

比較的多い。下層も加里がやや少く他の養分は比較的存在する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、豆類、麦類、ハツカ、ニンニク等栽培作物は多種類にわたっている。一部は水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

特殊の問題点はない。有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。局部的に礫質地在存在する、かかるところは客土や重点的な有機物の投入が必要であろう。

D 分布

常呂郡佐呂間町市街地から知来、仁倉に至る佐呂間別川の流域に分布。

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

知 来 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量5~6%, 土性はLiC が主である。未風化細小円礫を含む、色は10YRで彩度3, 明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎 pH (H₂O) 6.0~6.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は地表下15cm内外以下で未風化細小中円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町知来 試坑No佐34

第1層	0~15cm	腐植に富む灰黄褐(10YR4/3)のLiC, 発達弱度の粒状構造, 未風化細小円礫を含む, ち密度10で疎, pH(H ₂ O)6.5, 調査時の湿り半乾。
第2層	15cm	未風化細小中円礫からなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.2	13.9	32.4	26.1	27.6	LiC	3.11	0.31	10	5.3

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.8	0	27.5	26.1	3.0	0.6	94.9	88.0	22.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては知来中央統，佐呂間北統，知来東統があるが，佐呂間北統，知来東統とは堆積様式が異り，知来中央統とは礫層の出現位置，有効土層が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色砂岩，砂岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 佐呂間川支流の低平地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年間降水量 800 mm 前後，年平均気温 5.6℃。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，豆類，ビート，麦類，ハツカ等が栽培される。

E 農業上の留意事項

礫質土が所々に分布するのでかかるところは客土が必要である。一般に有機物を施用しながら漸次深耕することが必要である。

F 分布

常呂郡佐呂間町知来の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
知来西 — 知来西	III t d I I g p (w) i

② 土壌区別説明

知 来 西 — 知 来 西

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	表	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	障	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐		
壤	効	土	土	土	土	地	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
生	土	土	土	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
産	土	土	土	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
力	の	の	の	の	の	の	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
可	の	の	の	の	の	の	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
能	の	の	の	の	の	の	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
性	厚	難	土	着	硬	乾	沃	基	灰	土	里	酸	要	の	危	危	傾	方	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	
等	深	含	性	性	性	性	性	力	力	態	量	量	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	
級	さ	量	易	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e													
	III	III	III	II	3	2	2	(II)	1	3	(2)	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1
	簡略分級式 III t d I I g p (w) i																							

A 土壌区の特徴

この土壌区は知来西統に属する。作土の厚さは15cm内外でやや浅く、有効土層は15cm内外で甚だ浅い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く、礫を含み耕起、砕土はやや困難である。保水性中庸〜小で透水過良であり過干のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的高い。地形は平坦で侵蝕のおそれはない、礫層が極く浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、豆類、ハツカ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと、礫質地が所々に分布するがかかる場所は客土や重点的な有機物の投入等が必要であろう。

D 分布

常呂郡佐呂間町知来の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

佐 呂 間 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4%前後、土性はLiCが主である。未風化細小中半角、円礫を含む、色は10YR 彩度3、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.6~1.8で疎、pH(H₂O) 6.5~7.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量1~2%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む、ち密度2.0前後で中、pH(H₂O) 6.0前後、下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下概む30cmで、未風化細小中円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡留辺蘂町瑞穂 試坑No若21

第1層	0~22cm	腐植を含む暗褐(10YR3/3)のLiC、未風化細小中円礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O) 7.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	22~35cm	腐植あり黄褐(10YR5/6)のCL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾。境界波状漸変。
第3層	35cm	未風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			組砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	4.4	6.5	21.3	44.3	27.9	LiC	2.42	0.27	9	4.1
2	22~35	3.5	27.0	35.3	20.2	17.5	cL	0.63	0.09	7	1.1

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.2	5.8	1.00	25.2	25.2	1.0	0.3	100.0	777	23.4
2	6.1	4.7	1.80	13.7	9.7	0.9	0.1	70.8	62.4	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては共立統，大成統，若佐中央統，富岡南統があるが共立統，大成統とは堆積様式が異り，若佐中央統，富岡南統とは礫層の出現位置，土性が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（砂岩風化物主）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形 佐呂間別川上流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，豆類，ビート，ハツカ，麦類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと。

F 分 布

常呂郡佐呂間町共立，啓生，若佐の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
佐呂間中央-佐呂間中央	d t n i

② 土壌区別説明

佐呂間中央-佐呂間中央

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	効	表	表	透	保	固	置	有	微	酸
生	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理
産	土	土	土	地	の	性	態	量	物	的
力	の	の	の	風	の	性	態	量	物	的
可	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩
能	の	礫	粘	土	基	灰	土	里	酸	要
性	厚	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	有
等	深	含	性	性	性	性	度	力	力	態
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	素	度	性
	i	d	g	p	w	f	n	i	a	s
					3	2	1		1	3
	1	1	3	1		1	2	1	1	1
		1	1		1	1		1	1	
	1	1		1	1	-	-		1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	簡略分級式 d tpni									

A 土壤区の特徴

この土壤区は佐呂間中央統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸，有効土層は30～40cmで浅い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く耕起，碎土はやや困難である。保水性中～小，透水性良好で過湿，過干のおそれは少い。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土は置換性加里，苦土含量中庸で他の養分は比較的多い。下層は磷酸，加里が少い。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。礫層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，ビート，豆類，麦類，ハツカ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと，所々に分布する礫質地には客土或は重点的な有機物の投入が望ましい。

D 分 布 常呂郡佐呂間町共立，啓生，若佐の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

瑞 穂 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～5%，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度3，明度4のものが多い，粒状構造で発達程度は弱度のもので多く，ち密度18～20で疎～中である。pH(H₂O)6.0前後，下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20～25cmで腐植含量1～2%，土性はLiCが主である。色は10YRで彩度4，明度4～5，細塊状構造で発達程度は中～強度である。細小孔を含む，ち密度20～24で中 pH(H₂O)6.0～6.5，下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30~40cmで腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は強度で、細小孔に富む。ち密度2.2前後で中、pH(H₂O)6.0~6.5、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下概む60~70cm以下で、未風化細小中大円礫層。地表下60~80cmで湧水する場合がある。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡留辺蘂町瑞穂 試坑No若22

第1層	0~15cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度2.0で中, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第2層	15~35cm	腐植あり褐色(10YR4/4)のLiC, 発達強度の細塊状構造, 細小孔を含む, ち密度2.3で中, pH(H ₂ O)6.5, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	35~65cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のLiC, 発達強度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度2.2で中, pH(H ₂ O)6.3, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	65cm~	未風化細小中大円礫層。湧水が見るところがある。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 粗 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.7	1.8	18.6	37.9	41.7	LiC	2.27	0.28	8	3.9
2	15~35	2.7	0.9	15.8	42.6	40.7	LiC	0.81	0.12	7	1.4
3	35~	2.6	4.3	38.4	31.5	25.8	LiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置 要容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽 和度%	燐酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.7	2.3	29.4	24.3	3.8	0.4	82.7	1070	13.6
2	6.5	4.7	1.5	25.8	20.5	4.6	0.2	79.5	1090	tr
3	6.3	4.5	2.3	20.4	18.1	1.5	0.1	88.7	845	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては瑞穂東統、佐呂間中央統、栄統等があるが、瑞穂東統は堆積様式が異り、佐呂間中央統とは礫層の出現位置及び土性が異り、栄統とは礫層の有無及び幹湿が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(シルト岩, 頁岩風化物)

過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多い、下層は磷酸に欠乏し、加里が少ない。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて、畑、水田が半々である。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと、施肥は加里、磷酸に重点をおくことが望ましい

D 分布

常呂郡佐呂間町上佐呂間の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

富 丘 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量3~5%、土性はLiCが主である。未風化細小中円礫を含む。富む、色は7.5 YRで彩度2、明度3のものが多い。

粒状構造で発達程度は中度である。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量1~2%、土性はSCLが主である。色は7.5 YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度で、細小孔に富む。ち密度は12~15で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はSLが主である。色は7.5 YRで彩度4、明度4~5、細塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔に頗る富む。ち密度10以下で頗る疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5 YRで彩度4、明度4~5、単粒構造で細小孔に頗る富む。ち密度10以下で頗る疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町富丘 試坑No若19B

第1層	0~19cm	腐植を含む黒褐(7.5 YR3/2)のLiC、未風化細小中円礫を含む、発達中度の粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	19~35cm	腐植あり褐色(7.5 YR4/4)のSCL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く灰褐(7.5 YR5/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に頗る富む、ち密度9で頗る疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。

第4層	60cm~	腐植を欠く灰褐(7.5 _{YR} 5/4)のS, 単粒構造, 細小孔に頗る富む, ち密度8 頗る疎, 調査時の湿り湿。
-----	-------	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~19	3.0	10.1	36.9	26.0	27.0	L1C	1.87	0.22	9	3.2
2	19~35	1.1	12.8	50.5	17.7	19.0	SCL	0.65	0.09	7	1.1
3	35~60	2.1	17.7	49.1	18.7	14.5	SL	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.1	0.3	32.9	21.9	5.2	0.2	66.6	88.6	10.3
2	5.9	4.9	2.8	36.8	15.2	3.0	0.2	41.2	90.9	2.0
3	6.0	4.8	2.8	26.1	15.0	2.8	0.1	57.5	89.9	3.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては

A-3 母 材 非固結水成岩(砂岩, 頁岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 佐呂間別川流域の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯, ビート, 豆類, ハツカその他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

特殊な問題点はない。有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

F 分 布

常呂郡佐呂間町富丘の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
富丘南 一 富丘南	ll t g p

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4~5%, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3~4、明度3~4。粒状構造で発達程度は弱度~中度である。ち密度10内外で疎, pH(H₂O)6.0~6.8。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量1~2%, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3, 明度5のものが多い, 細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含み, ち密度20前後で中, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下概ね40~50cm以下で腐植を欠き, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6, 明度4のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度であり, 一部柱状構造を呈す。雲状, 斑状の酸化沈積物に富み, 灰色斑有り, ち密度18前後で疎。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間富武士 試坑No佐47

第1層	0~20cm	腐植を含む褐色(7.5YR 4/3)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度10で疎, pH(H ₂ O)6.8, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	20~40cm	腐植あり灰褐色(7.5YR 5/3)のLiC, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔を含むち密度20で中, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	40cm	腐植を欠く褐色(7.5YR 4/6)のLiC, 発達弱度の塊状構造, 角柱状も呈す。細小孔に富む, 雲状, 斑状の酸化沈積物に富み, 灰色斑有り, ち密度18で疎調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	2.9	4.3	30.9	36.3	28.5	LiC	2.43	0.22	11	4.2
2	20~40	2.5	4.8	31.6	35.3	28.3	LiC	1.08	0.12	9	1.9

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.8	5.8	0.3	27.2	25.1	4.0	0.5	92.2	880	188
2	6.1	5.2	0.5	24.6	18.2	5.0	0.3	74.0	440	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては床丹統, 富武士統, 仁倉北統等があるが, 腐植層序, 乾湿が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(砂岩, 赤色砂岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

や高く過湿のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多く、下層は磷酸に欠乏し、加里がやや少い方である。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、畑地には馬鈴薯、ビート、豆類、麦類、ハツカその他の作物が栽培され、一部は水稲が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

軽度の暗渠排水を必要とする。有機物を施用しつつ漸次深耕して行くことが望ましい。

D 分布

常呂郡佐呂間町仁倉、富武士の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

仁 倉 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量5~6%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度3、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱~中度である。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2~3%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度6のものが多い、発達弱度の塊状構造と角柱状構造を呈す。細小孔を含、雲状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度15~18で疎、pH(H₂O)5.5~6.0。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度6のものが多い、角柱状構造で、管状の酸化沈積物に頗る富み、マンガン斑あり、ち密度20前後で中、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はL~CLである。色は10YRで彩度2、明度6のものも多く、細塊状構造で発達程度は弱度である。雲状、斑状の酸化沈積物に頗る富む、ち密度22前後で中、下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下50~60cm以下で腐植を欠き、土性はHCが主である。色は2.5GYで彩度1、明度4~5。均質連結状を呈す。ち密度20前後で中、グライを呈す。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町仁倉 試坑No.55

第1層	0~16cm	腐植に富む灰黄褐(10YR 4/3)のLiC、発達中度の粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	16~28cm	腐植あり淡黄褐灰(10YR 6/2)のLiC、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.9、雲状斑状の酸化沈積物に富み、調査時の湿り湿、境界波状漸変。

第3層	28~45cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR6/2)のLiC, 角柱状構造, ち密度2.0で中, 雲状, 管状の酸化沈積物に頗る富み, マンガン斑あり, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第4層	45~55cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR6/2)のL, 発達弱度の細塊状構造, ち密度2.2で中, 雲状, 斑状の酸化沈積物に頗る富む, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第5層	55cm~	腐植を欠く暗黄灰(2.5GY4/1)のHC, 均質連結状, ち密度2.0で中, グライを呈す, 調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~16	3.3	6.2	6.9	35.9	31.0	LiC	3.04	0.33	9	5.2
2	16~28	3.1	3.0	18.9	41.2	36.9	LiC	1.70	0.19	9	2.0

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2		0.5	2.68	2.08	3.2	0.4	77.6	1.235	13.2
2	5.9		1.0	3.11	2.00	5.7	0.3	64.3	1.420	5.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁倉西統, 知来中央統があるが, 仁倉西統とは堆積様式が異なり, 知来中央統とは礫層の有無並びに乾湿が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(砂岩, 頁岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 佐呂間別川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6°C, 年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

畑地と水田に利用され, 畑地にはビート, 馬鈴薯, 豆類, 麦類, 牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水未施行のところは完全な暗渠排水の実施が必要である。特に幹線明渠を整備して水位の低下を図ることが必要であろう。

F 分 布

常呂郡佐呂間町仁倉の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

床 丹 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ8~10cmで腐植含量4~5%, 土性はLiCが主である。色は2.5 YRで彩度2, 明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.5で疎, pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ2.0~2.5cmで腐植含量1~2%, 土性はLiCが主である。色は2.5 Yで彩度2, 明度5のものが多い, 均質連結状でわずかに角柱状を展す。ち密度1.5~1.8で疎, pH(H₂O) 5.5前後。雲状, 管状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ2.0cm内外で腐植を欠き, 土性はOLが主である。色は2.5 Yで彩度2, 明度6のものが多い。均質連結状で, 雲状, 管状の酸化沈積物を含む, ち密度8前後で頗る疎, pH(H₂O) 5.0~5.5グライを呈す, 下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下5.0~6.0cm以下で腐植を欠き, 土性はSCLが主である。色は2.5 GYで彩度1, 明度4のものが多い。均質連結状, ち密度8前後で頗る疎, pH(H₂O) 5.5前後。グライを呈す。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町床丹 試坑66

第1層	0~8cm	腐植を含む黄褐灰(2.5Y4/2)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.2で疎, pH(H ₂ O) 5.6, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変
第2層	8~3.5cm	腐植あり黄褐灰(2.5Y4/2)のLiC, 角柱状構造, 斑状, 管状の酸化沈積物を含む, ち密度1.7で疎, pH(H ₂ O) 5.5, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	3.5~5.5cm	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y6/2)のOL, 均質連結状, 斑状, 管状の酸化沈積物を含む, ち密度8で頗る疎, pH(H ₂ O) 5.3, 調査時の湿り潤, 境界波状漸変。
第4層	5.5cm~	腐植を欠く暗黄灰(2.5GY4/1)のSCL, 均質連結状, ち密度8で疎, pH(H ₂ O) 5.6, 調査時の湿り潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 積

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	全炭素	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~8	0.7	1.0	25.9	36.1	37.0	LiC	1.22.5	2.72	2.69	0.26	1.0	4.6
2	8~3.5	2.1	0.2	35.3	34.9	26.6	LiC	1.42.5	2.68	0.90	0.12	8	1.6
3	3.5~5.5	0.9	1.1	39.3	35.5	24.1	OL	1.27.5	2.72	-	-	-	-
4	5.5~	2.0	0.9	23.3	46.5	29.3	SiC	1.17.8	2.77	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.3	17.5		5.5	0.3	0.5	25.8	86.8	tr
2	5.5	3.8	20.5		6.4	4.7	0.3	31.1	81.6	tr
3	5.3	4.1	26.8		5.5	6.9	0.2	26.7	92.9	2.0
4	5.6	4.2	5.0		6.6	7.0	0.3	28.7	91.8	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては若里統、仁倉統があるが、若里統とは堆積様式が異なるので、また仁倉統とは乾湿の程度が異なるので、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（中世層砂岩、頁岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

一部は耕地に利用されて牧草その他が栽培されているが、他は牧草地または原野になっている。

E 農業上の留意事項

畑地に利用する場合は明渠、暗渠排水の完備が必要である。酸性矯正を行い、磷酸、加里を増施することが差し当り必要である。また有機物の施用も欠かせない。

F 分布

常呂郡佐呂間町字床丹の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
床 丹 - 床 丹	IVwIII t f II p n

(2) 土壌区別説明

床 丹 - 床 丹

示性分級式 (畑)

土表有表耕	表表表	透保湿	自保固土	養置	有微酸	障有物	災増地	傾自傾人	侵耐
壤効土	土土	土土	然	層分換	効	害理	冠す	斜	水風
生土	土土	土土	地	の性	態量	物的	水べ	然為	水風
産土	のの	のの	の乾	の水	潤肥	定塩	の石	害質	害の
力の層	のの	の乾	の水	潤肥	定塩	の石	害質	害の	の
能の礫	土土	の乾	沃	基	灰土	里酸	要	の害	危危
性厚	難	着	硬	状	豊含	無性	度	斜向	斜
等深	性性	性性	性性	力力	態態	量量	素度	無性	度度
級さ	量量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	IV III I I II 3 2 2	IV 3 3 4	III 1 2 3	II 2 1 1	3 2 2	I 1 1	I 1 1	I 1	- - I 1 1 1
	簡略分級式 IVw III t f II p n								

A 土壤区の特徴

この土壤区は床丹統に属する。表土は厚さ10cm以内で浅く、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性大で耕起、砕土はやや困難である。保水性中庸、透水性やや小で地下水位高く排水極く不良を呈する。

保肥力大、燐酸固定力中庸で土層の塩基状態は不良である。作土、心土とも燐酸に欠乏し、酸性を呈す。また加里がやや少いようである。地形は平担で侵蝕のおそれなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

一部は耕地に利用され牧草その他の作物が栽培され、他は牧草地または原野になつている。

C 地力保全上の問題点

組織的に明渠、暗渠排水を完備することが先決で、次いで酸性矯正を行い、燐酸、加里を増施することが必要である。また有機物を施用する必要がある。

D 分布

常呂郡佐呂間町字床丹の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

中 園 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5~6%, 土性はL1C が主である。未風化小中半角, 角礫に富む, 色は5YR で彩度2, 明度2のものが多い, 粒状構造で発達程度は弱度のものも多く, ち密度1.0~1.5で疎, pH(H₂O)5.5~6.0, 下層との境界は平担明瞭である。

第2層は厚さ20cm末外で腐植含量1~2%, 土性はSCL が主である。未風化小中半角, 角礫に富む。色は5YR で彩度4, 明度3のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度であり, 細小孔を含む。

む。ち密度 2.0 ~ 2.2 中で、pH(H₂O) 6.0 前後。下層との境界は波状漸変である。

第 3 層は厚さ 1.0 ~ 2.0 cm で腐植を欠き、土性は CL が主である。未風化小中半角、角礫を含む。色は 5YR で彩度 4、明度 3 ~ 4、細塊状、塊状の複合構造で発達程度は中 ~ 強度である。細小孔を含み、ち密度 1.8 で疎、下層との境界は波状漸変である。

第 4 層は地表下 5.0 ~ 6.0 cm 以下で腐植を欠き、未風化小中大半角、角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町字中園 試坑 No 若 14

第 1 層	0 ~ 2.0 cm	腐植に富む黒褐 (5Y2/2) の LiC, 未風化小中半角, 角礫に富む, 発達弱度の粒状構造, ち密度 1.2 で疎, pH(H ₂ O) 5.8, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第 2 層	2.0 ~ 4.0 cm	腐植あり赤褐 (5YR3/4) の SCL, 未風化小中半角, 角礫に富む, 発達強度の細塊状構造, ち密度 2.2 中で, pH(H ₂ O) 6.0, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第 3 層	4.0 ~ 5.5 cm	腐植を欠く赤褐 (5YR4/4) の CL, 未風化小中半角, 角礫を含む, 発達中度の細塊状, 塊状の複合構造, 細小孔を含む, ち密度 1.8 で疎, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第 4 層	5.5 cm	未風化小中大半角, 角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 2.0	4.3	16.4	27.2	29.8	26.6	LiC	3.07	0.32	10	5.3
2	2.0 ~ 4.0	2.7	35.3	31.5	17.9	15.3	SCL	0.90	0.11	8	1.6

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.5	2.3	25.7	16.5	1.7	0.2	64.2	1.030	5.0
2	6.0	4.6	1.8	25.0	14.8	3.3	0	59.2	1.235	2.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁倉川統、富丘統、富丘南統等があるが、何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 変成岩 (赤色珪岩)

A-4 堆積様式 水積 (扇状堆土)

B 地形 標高 60 ~ 100 m の波状性緩傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。

年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800 mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用されて馬鈴薯, 牧草, ビート, 麦類, 豆類等が栽培されている。一部は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

一部やや排水不良を呈するからかかるところは排水渠と暗渠排水を実施することが必要であり, 有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

施肥面では燐酸, 加里を増施することが必要である。

F 分布

常呂郡佐呂間町字中園

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中 園 - 中 園	II t d g p w n s

(2) 土壌区別説明

中 園 - 中 園

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	効	土	透	保	固	置	有	物	増
生	土	土	湿	湿	土	有	微	酸	地
力	土	土	然	然	層	換	効	害	冠
可	の	の	乾	水	潤	肥	定	塩	の
能	の	粘	土	沃	基	灰	土	里	酸
性	厚	難	土	着	硬	沃	状	豊	含
等	深	含	性	性	性	力	力	態	量
級	さ	量	易	湿	度	否	素	性	無
	t	d	g	p	w	f	n	i	a
									s
									e
II II II II 3 2 2 II 1 2 2 I 1 2 1 II 1 1 2 2 1 2 I 1 1 I 1 1 II 2 - - I 1 1 1									
簡略分級式 II t d g p w n s									

A 土壌区の特徴

この土壌区は中園統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸, 有効土層は50~60cmで中庸である。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く未風化礫に富むため耕起, 砕土はやや困難である。透水性良好で保水性中庸で大部分は過湿, 過干のおそれは少いが部分的に過湿のおそれがある。

保肥力大, 燐酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好である。作土, 心土とも有効態燐酸, 置換性加里

含量が低い。地形は緩傾斜を呈し侵蝕のおそれは少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて馬鈴薯、牧草、ビート、麦類、豆類等が栽培され、一部は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

一部排水不良を呈するところは排水渠、暗渠排水を実施することが必要である。有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましく、施肥面では磷酸、加里を増施する必要がある。

D 分布

常呂郡佐呂間町字中園の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

佐 呂 間 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は有さ20cm内外で腐植含量6~8%、土性はLiCが主である。未風化、半風化細小中半角、角礫を含む。色は7.5YRで彩度1、明度3のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量1~2%、土性はOLが主である。未風化、半風化細小中半角、角礫を含む~富む、色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度であり、大亀裂を有す。斑状、雲状の酸化沈積物を僅かに含み、ち密度15~18で疎である。pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下40~50cm以下で腐植を欠き、未風化、半風化細小中半角、角礫からなる礫層で、僅かに土壌を含む、ち密度25~30で密~甚密。礫を含む盤層の場合もある。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡佐呂間町 試坑16佐17B

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(7.5YR3/1)のLiC、未風化、半風化細小中半角、角礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~40cm	腐植あり褐色(7.5YR4/4)のOL、未風化、半風化細小中半角、角礫に富み、発達中度の細塊状構造、大亀裂あり、雲状、斑状の酸化沈積物あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、降雨後では伏流湧水が見られる。境界波状漸変。
第3層	40cm~	未風化、半風化細小中半角、角礫からなる礫層、土壌を僅かに含む、ち密度26前後で密、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	2.2	9.2	25.6	36.3	28.9	LiC	3.53	0.33	11	6.1
2	20~40	1.2	11.9	31.3	35.8	21.0	CL	0.71	0.96	7	1.2

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.8	23.3	15.8	1.9	0.4	67.8	85.6	9.4
2	5.6	4.5	3.5	17.3	10.1	4.3	0.6	58.4	84.9	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては富丘統、富丘南統、幌岩北統等があるが、富丘南統とは堆積様式が異り、また幌岩北統とは堆積様式は同じであるが母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 固結水成岩、変成岩（古生層砂岩、赤色珪岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地 形 標高60~100mの緩傾斜~傾斜地

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、馬鈴薯、ビート、ハツカ、豆類、麦類、牧草等が栽培され、一部は山林または原野になっている。

E 農業上の留意事項

堅密層が浅いので、心土破砕を行うこと及び斜面上部に排水渠を設置して伏流水を押える必要がある。有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましく、施肥面では燐酸、加里に重点をおくことが望ましい。

F 分 布

常呂郡佐呂間町字佐呂間、富富士の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
佐呂間北一佐呂間北	III d II t p i s e

② 土壌区別説明

佐呂間北一佐呂間北

示 性 分 級 式

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	有 効 土 層 厚 深 量	表 土 耕 起 土 質 粘 土 難 性 性 易	表 土 耕 起 土 質 粘 土 難 性 性 易	土 質 粘 土 難 性 性 易	透 透 透	保 湿 潤 肥 沃 度	自 然 沃 沃 沃	保 固 土 層 分 換	養 分 固 定 力 中 庸	置 換 層 分 換	障 害 質 障 害 有 害 性	酸 腐 害 質 障 害 有 害 性	災 害 質 障 害 有 害 性	増 地 冠 す べ り の 傾 斜	傾 斜 地 冠 す べ り の 傾 斜	自 然 傾 斜 地 冠 す べ り の 傾 斜	人 為 傾 斜 地 冠 す べ り の 傾 斜	侵 蝕 水 風 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕	耐 風 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕
t d g p	w	f	n	i	a	s	e												
Ⅲ Ⅱ Ⅲ Ⅰ Ⅱ Ⅲ 2 2 Ⅱ Ⅰ 2 2 Ⅰ 1 2 1 Ⅰ 1 1 1 2 1 1 Ⅱ 1 2 Ⅰ 1 1 Ⅱ 2 - - Ⅱ 2 1 1																			
簡略分級式 Ⅲ d Ⅱ t p w s e																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は佐呂間北統に属する。作土の厚さは20cmで中庸、有効土層は40～50cmで浅い、この場合礫層に近い状態で盤層状を呈するもの及び礫を含む盤層状を呈するものがある。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く、礫を含み、耕起、碎土はやや困難である。堅密層浅く、伏流水の影響を受けて一時的に過湿になる場合がある。

保肥力大、燐酸固定力中、土層の塩基状態はおおむね良好である。作土は有効態燐酸含量中庸で他の養分はおおむね存在する。下層は燐酸が少い。地形は緩傾斜を呈する場合が多く侵蝕のおそれは少いが一部傾斜地は侵蝕のおそれがある。堅密な盤層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、ハツカ、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

伏流水の影響あるところは針面上部に捕水渠を設置し、また排水不良を呈するところは軽度の暗渠排水を実施すること望ましい。

有機物を施用しながら漸次深耕すること、施肥面では燐酸、加里に重点をおくこと等が必要である。

D 分布

常呂郡佐呂間町字佐呂間、富富士の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

幌 岩 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量7～8%、土性はLiCが主である。半風化細小中半角、角礫に頗る富む。色は10YRで彩度2、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。

ち密度1.0～1.5で疎、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量2~3%,土性はLiCが主である。半風化細小中半角,角礫に頗る富む。色は10YRで彩度3,明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中程度で,細小孔に富む。ち密度20前後で中, pH(H₂O)5.5~6.0,下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下おおむね30cm以下で腐植を欠き,未風化,半風化細小中大半角,角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町幌岩 試坑6佐14

第1層	0~14cm	腐植に富む黄褐灰(10YR4/2)のLiC,未風化,半風化細小中半角,角礫に頗る富む,発達弱度の粒状構造,ち密度12で疎,pH(H ₂ O)5.9,調査時の湿り半乾,境界平坦明瞭。
第2層	14~30cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のLiC,未風化,半風化細小中半角,角礫に頗る富む,発達中程度の細塊状構造,細小孔に富む,ち密度20で中,pH(H ₂ O)5.8,調査時の湿り半乾,境界波状漸変。
第3層	30cm~	未風化,半風化細小中半角,角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	3.8	16.5	23.4	31.3	28.8	LiC	4.18	0.30	1.4	7.2
2	15~30	3.1	16.1	19.9	38.2	25.8	LiC	1.22	0.10	1.2	2.1

層位	pH		置換酸 度Y1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	燐酸吸 収係数	有効態 燐酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.4	2.0	23.3	17.2	4.2	0.5	73.8	72.9	9.2
2	5.8	4.5	6.0	16.7	10.2	3.4	0.2	61.1	57.6	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては仁倉川統,富武士統があるが,仁倉川統とは堆積様式が異り,富武士統とは母材,堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩(古生層砂岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形 標高40~60mの緩傾斜~傾斜地

C 気候

一般に冷涼で,オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6°C,年間降水量800mm前後

D 植生及び利用状況

急傾斜以外は畑地に利用されて馬鈴薯,ビート,麦類,牧草その他の作物が栽培されている。他は山林,原野になっている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが必要である。一部大、巨礫の多いところは除礫が必要となる。

F 分布

常呂郡佐呂間町字幌岩の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
幌岩北 - 幌岩北	ⅢtdⅡgpis

② 土壌区別説明

幌 岩 北 - 幌 岩 北

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	表表表	土透保湿	自保固土	養置	有微酸	障有物	災增地	傾自傾入	侵耐
壤効	土土土	土の風	然	層分換	" " 効	害理冠す	害的水べ	斜然為	水風
産土	土のの	乾の水水	潤肥定塩	石舌加燐	害質障	害のの	傾方傾	傾	蝕蝕
力可の層	ののの	乾の水水	潤肥定塩	石舌加燐	害質障	害のの	傾方傾	傾	蝕蝕
能の礫	土のの	乾	沃	基灰土里酸要	の危危	傾方傾	傾	蝕蝕	
性厚深	難着硬	乾	沃	状豊含	有	害險	傾	蝕蝕	
等深含	性性さ	性性度	力力態	量 " " 素度	無性度	度	斜向斜	度性性	
級ささ量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕		
tdgp	w	f	n	i	a	s	e		
ⅢⅡⅡⅡⅢ321	Ⅰ111	Ⅰ121	Ⅰ112112	Ⅱ12	Ⅰ11	Ⅱ2	--	Ⅰ121	
簡略分級式 ⅢtdⅡgpis									

A 土壌区の特徴

この土壌区は幌岩北統に属する。作土の厚さは15cm内外でやや浅く、有効土層は30cm内外で浅い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く、礫に頗る富むため耕起、碎土はやや困難である。礫層浅いが保水性中庸で過湿過干のおそれは少い。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土、心土とも有効態磷酸やや少いが他の養分は比較的存在する。地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれは少い。礫層が浅く出現し物理的障害を受ける。地表に堅密な半角礫が存在する。

B 植生及び利用状況

緩傾斜地は畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、麦類、牧草その他の作物が栽培されている。他は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが必要である。地表から大、巨礫の多いところは除礫の必要がある。施肥面では磷酸、加里の増が望ましい。

D 分布

常呂郡佐呂間町字幌岩の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

瑞 穂 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量4~5%, 土性はCLが主である。半風化, 風化細小半角, 角礫を含む, 色は10YRで彩度3, 明度3のものが多。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下, 土性はCLが主である。半風化, 風化小中半角, 角礫に富む, 色は10YRで彩度4, 明度5のものが多。

細塊状構造で発達程度は中程度で, 細小孔を含む~富む。ち密度20~25で中~密, pH(H₂O)5.8前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下30~40cm以下で半風化, 風化小中半角, 角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡留辺蘂町瑞穂 試坑6若28

第1層	0~14cm	腐植を含む暗褐(10YR3/3)のCL, 半風化, 風化細小半角, 角礫を含む, 発達弱度の粒状構造, ち密度12で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	14~35cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のCL, 半風化, 風化小中半角, 角礫に富む 発達中程度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度25で密, pH(H ₂ O)5.8, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	35cm	半風化, 風化細小中半角, 角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~14	1.2	19.5	37.2	26.0	17.3	CL	2.45	0.23	11	4.2
2	14~35	0.3	19.3	40.8	24.9	15.0	CL	0.61	0.08	8	0.9

層位	pH		置換酸 度 Y 1	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	1.3	21.4	17.9	2.5	0.4	83.6	687	2.9
2	5.8	4.3	3.8	18.1	7.9	8.4	0.2	43.4	720	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては瑞穂南統、共立統等があるが、瑞穂南統とは堆積様式が異り、共立統とも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（中生層砂岩、頁岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 標高80～100mの緩傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害を受ける。年平均気温5.6℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、麦類、牧草その他が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町共立の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
瑞穂東 - 瑞穂東	td ise

② 土壌区別説明

瑞 穂 東 - 瑞 穂 東

示 性 分 級 式（畑）

土表有表耕（土）自（養）置（障）災（傾）侵（ 壤 表表表 透保湿 保固土 置 有微酸 有物 増地 自傾人 侵耐耐 生 効土土 土土 然 層分換””効 害理 冠す 産 土土 土土 地 性 態量 物的 水べ 然斜 為 水風 力 の の の 乾の水水潤肥肥定塩の石舌加燐 害質 害の の 蝕 可の層 のの 粘土 基 灰土里酸要 の 危危 方傾 蝕蝕 能 の礫 土土 乾 沃 状豊含 ”” 素度 無性 度度 斜向斜 度性性 性厚 難土着 硬 沃 状豊含 ”” 有害 有 険険 方傾 蝕蝕 等 深含 性性 さ 性性度 力力態 量”” 素度 無性 度度 斜向斜 度性性 級さ さ量易 湿 度 否 性 性 斜 蝕
t d g p w f n i a s e
2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 1 2 - - 1 2 0
簡略分級式 td ise

A 土壤区の特徴

この土壤区は瑞穂東統に属する。作土の厚さは15cm内外で浅く、有効土層は30～40cmで浅い。作土の土性は中粒質で粘着性中で耕起碎土は容易である。礫層浅いが保水性中庸で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多い方であるが、下層は磷酸が少く、加里がやや少い。

地形は緩傾斜を呈し、一部侵蝕のおそれがある。礫層が極く浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて馬鈴薯、ビート、麦類、その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用しながら漸次深耕すること、等高線栽培等の保全耕作が必要である。

D 分布 常呂郡佐呂間町共立の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

佐 呂 間 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～30cmで腐植含量7～10%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は中度のものが多く、ち密度11～15で疎、pH(H₂O)6.0～6.5、下層との境界は平坦明瞭または波状漸変である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。色は10YRで彩度2、明度7～8、角柱状構造を呈し、細小孔を僅かに含む。雲状、斑状の酸化沈積物に頗る富む。ち密度24前後で中、pH(H₂O)6.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表化50～60cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度7富8。角柱状構造で細小孔あり、雲状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度15～20で疎～中、pH(H₂O)5.5前後。80～90cmで湧水する場合がある。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡佐呂間町字佐呂間 試坑No.若18

第1層 0～33cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/3)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度11で疎、pH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第2層 33～55	腐植あり淡黄褐灰(10YR7/2)のSiC、角柱状構造、細小孔を 含 雲状、斑状酸化沈積物に頗る富む、ち密度24で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿、境界波状漸変
第3層 55～	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/2)のCL、角柱状構造を呈し一部発達弱度の塊状構造、細小孔含む、雲状、斑状酸化沈積物に富む、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	岸素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~33	1.9	6.7	23.6	35.4	34.3	LiC	4.08	0.42	10	7.0
2	33~55	1.6	0.4	24.0	48.4	27.2	SiC	0.47	0.07	7	0.8
3	55~	1.0	5.7	47.4	27.4	19.5	cL	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.5	5.3	0.3	36.8	32.4	6.5	0.4	88.2	510	tr
2	6.0	4.7	2.5	17.3	10.6	5.6	0.1	61.3	735	tr
3	5.6	4.3	3.5	16.0	9.0	4.6	0.1	56.3	646	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似の統としては富丘統、富丘南統、知内中央統等があるが、何れも堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 略々平坦な扇状地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、ハツカ、チソ、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明渠排水、暗渠排水の完備が必要である。施肥面では磷酸、加里に重点をおくことが望ましい。

F 分布 常呂郡佐呂間町字佐呂間の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
佐呂間西—佐呂間西	llwllps

② 土壌区別説明

佐呂間西 — 佐呂間西

示性分級式 (畑)

土表有表耕	(土)	(自)	(養)	(障)	(災)	(傾)	(侵)
壤効土	表表透	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人
主土	土土	然	層成換	" "効	害理	冠す	斜為
産土	のの	の風	の性	曜量	物的	水べ	然為
力土	の層	の乾	の水水潤肥定塩	の石苦加燐	害質	害のり	の蝕
可の	礫粘	土	基灰土里酸要	の障	の危	の傾	傾蝕
能厚	の難土着	乾	沃	状豊含	" " "	有害	險
性深	含	性性	性性度	力力態	量	素度	無性
等	性性	性性度	力力態	量	素度	無性	度度
級	ささ量易	湿	度	否	性	性	斜
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
	III I I I	II 3 2 2	III 2 2 3	I 1 1 1	I 1 1 1 3 2 1	I 1 1	I 1 1 II 2 -- I 1 1 1
	簡略分級式 III w II p s						

A 土壤区の特徴

この土壤区は佐呂間西統に属する。作土乃至表土の厚さは 25~30 cm で、有効土層は 1 m 以上で深い。作土の土性は細粒質であるが粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。透水性は比較的よいが伏流水、地下水位の影響を受けるため過湿のおそれがある。

保肥力大、燐酸固定力小、土層の塩基状態は良好である。作土は有効態燐酸含量が低い。他の養分含量は比較的高い。下層は燐酸、加里が少い。地形は略々平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、ハツカ、チソ、豆類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明渠排水の完備が必要である。施肥面では燐酸、加里に重点をおくことが望ましい。

D 分布 常呂郡佐呂間町字佐呂間の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

仁 倉 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第 1 層は厚さ 13~15 cm で腐植含量 20% 以上、土性は LiC である。色は 5 YR で彩度 2、明度 2 のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度 10 以下で頗る疎、pH (H₂O) 5.5~5.7、下層との変境は平坦明瞭である。

第 2 層は厚さ 20 cm 内外で、色は 5 YR で彩度 3、明度 3 のものが多い。ヨシ、ハンノキ、スギナからなる低位泥炭で、分解不良である。ち密度 10 以下で頗る疎、pH (H₂O) 4.0~4.5、下層との境界は波状明瞭である。

第 3 層は厚さ 20~30 cm で、色は 5 YR で彩度 1、明度 3 のものが多い。ヨシを主材とし、スギナ

を混ざる低位泥炭で分解不良である。ち密度10以下で頗る疎，pH(H₂O) 4.5～5.0，下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下60cm内外以下で色はNで明度3のものが多い。ヨシを主材とし，ハンノキを混ざる低位泥炭で分解はやや良好である。ち密度10以下で頗る疎，第3層との間に薄層の火山砂を挟む。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡常呂町岐阜 諸坑№.Lp 9

第1層	0～13cm	黒褐(5YR2/2)の腐植土(LiC)，表達弱度の細粒状構造，ち密度10以下で頗る疎，pH(H ₂ O) 5.7，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。客入土を混ざる。
第2層	13～60cm	黒褐(5YR3/1)のヨシを主材とし，スギナを混ざる低位泥炭，分解不良，ち密度10以下で頗る疎，pH(H ₂ O) 4.9，調査時の湿り湿，境界波状明瞭。
第3層	60cm～	黄黒(N3/0)のヨシを主材とし，ハンノキを混ざる低位泥炭，分解やや良好，調査時の湿り潤。第3層との間に薄層の火山砂を挟む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～13	5.6	5.8	32.8	31.7	29.7	LiO	58.7	1.82	14.6	1.08	14	25.1
2	13～35	8.6	-	-	-	-	泥炭	29.3	1.24	36.3	21.6	17	60.5
3	35～60	8.0	-	-	-	-	泥炭	-	-	-	-	-	泥炭

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	5.0	0.6	42.3	39.7	4.2	1.2	93.9	1,480	16.9
2	4.3	3.7	10.6	-	2.17	2.4	0.7	-	1,740	tr
3	4.9	4.3	5.0	-	16.9	3.6	0.5	-	700	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては床丹統，仁倉統があるが夫々堆積様式が本統と異なるので区別される。

A-3 母材 ヨシ，ハンノキ，スギナ

A-4 堆積様式 集積

B 地形

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。

D 植生及び利用状況

原野として放置されているところが多く，ヨシ，スゲ等が繁茂している。一部は畑地に利用されて馬鈴薯，ビート，麦類，牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

原野のまま放置されているところは河川改修，幹線明渠の組織的实施を見なければ利用困難である。
畑地では不完全のところは暗渠排水を完備し，酸性矯正を完全に行つた上，磷酸，加里に施肥の重点をおくことが必要である。

また石灰，磷酸を投入しつつ漸次深耕して行くことが望ましい。

D 分 布 常呂郡佐呂間町字仁倉，幌岩の一部
記載責任者 高尾 欽 彌（北海道立中央農業試験場）
日 付 昭和43年3月31日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

土壤断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

(水 田)

保全対策地区名	該当土壤区	面積(ha)	主 な 特 徴	重要な保全対策
若 佐 南	若 佐 南 - 若 佐 南	4.42	過湿のおそれがある 磷酸，加里が少い	排 水 施肥合理化
若 佐 中 央	若佐中央 - 若佐中央 栄 - 栄	3.53	磷酸，加里が少い	施肥合理化
中 園 南	中 園 南 - 中 園 南	1.3	礫層が極く浅い 磷酸，加里が少い	客 土 施肥合理化

(畑)

保全対策地区名	該当土壤区	面積(ha)	主 な 特 徴	重要な保全対策
仁 倉 南	仁 倉 南 - 仁 倉 南	1.55	水蝕が発生する 磷酸，加里が少い 腐植に乏しい	保全耕作 施肥合理化 有機物施用
若 里	知来東 - 知来東 富 丘 - 富 丘 浜佐呂間 - 浜佐呂間 岐 阜 - 岐 阜 共 立 - 共 立 富 武 士 - 富 武 士 若 里 - 若 里	25.10	過湿のおそれがある 下層堅密 腐植に乏しい 水蝕のおそれがある 磷酸，加里がやや少い	排 水 心土破碎 有機物施用 保全耕作 施肥合理化
大 成	大 成 - 大 成 豊 里 - 豊 里	2.78	過湿のおそれがある 水蝕のおそれがある 腐植にやや乏しい 磷酸，加里が少い	排 水 保全耕作 有機物施用 施肥合理化
知 来 化	知来化 - 知来北	7.4	水蝕発生のおそれがある 腐植がやや少い 磷酸，加里が少い 過湿のおそれがややある	保全耕作 有機物施用 施肥合理化 軽度の排水

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
知来中央	仁倉川-仁倉川 知内中央-知来中央 富岡南-富岡南	790	作土層が比較的浅い 腐植がやや少ない	深耕 有機物施用
仁倉	佐呂間西-佐呂間西 瑞穂南-瑞穂南 仁倉-仁倉	147	過湿のおそれがある 腐植にやや乏しい 作土がやや浅い	排水 有機物施用 深耕
佐呂間中央	知来西-知来西 佐呂間中央-佐呂間中央	461	腐植にやや乏しく作土がやや浅い 礫質地が所々に分布し 過干のおそれがある	有機物施用と深耕 一部客土
床丹	仁倉北-仁倉北 床丹-床丹 仁倉西-仁倉西	358	過湿のおそれが多い 酸性を呈する 腐植に乏しい 燐酸, 加里が少ない	排水 酸性矯正 有機物施用 施肥合理化
中園	中園-中園	375	腐植にやや乏しい 表土が浅い 水蝕発生のおそれがある 燐酸, 加里が少ない	有機物施用 深耕 保全耕作 施肥合理化
佐呂間北	佐呂間北-佐呂間北 幌岩北-幌岩北 瑞穂東-瑞穂東	569	水蝕発生のおそれがある 作土層がやや浅い 腐植に乏しい	保全耕作 深耕 有機物施用

2) 保全対策地区別説明
(水田)

〔若佐南保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	442	若佐南-若佐南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

台地の水田土壌で、堅密層が浅いため透水極く悪く従つて表面排水が悪い、腐植含量やや少く、燐酸加里が少ない。稲作限界地帯に位置し、初夏、盛夏にしばしば低温に見まわれて初期生育の遅延或いは減数分裂期に障害をうけ、更に初霜が早く襲来する等気象的災害が多い。

② 営農の方向、その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり、水稻単作のみでなく他の作物や畜産の加味が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器 具の種類型式数量等	備考
排水	若佐南一若佐南 422ha	明渠，暗渠排水の完備	素焼土管，塩ビパイプ 工事費の助成	
施肥合理化	同上	燐酸，加里の増施	熔成燐肥の併用指導	
健苗育成	同上	苗床技術の高揚	指導	

② その他

気象の災害を特に受け易い年はこれを回避または軽減するため、品種の選択、健苗育成、初期生育の促進を図るため施肥改善、水管理等に特段の留意が必要である。

区画拡大の場合は堅密未風化な下層土が露出すると物理的、養分的に問題があるから表土処理を原則とすることが無難であろう。

〔若佐中央保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	353	若佐中央一若佐中央，栄一栄

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

佐呂間別川の流域に分布する沖積土で、土性は細粒質で粘着性強く、50cm内外以下は堅密な礫層またはグライ層で、水田土壌としては中間的なものであるが地下排水がやや不良である。腐植にやや乏しく、燐酸，加里がやや少ない。

稲作限界地帯に位置し、初夏，盛夏にしばしば低温に見まわれて初期生育の遅延或は減数分裂期に障害を受け、更に初霜が早くしゅう来する等気象的災害が多い。

② 営農の方向，その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり、水稻単作のみでなく他の作物や畜産の加味が必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類型式数量等	備考
施肥合理化	若佐中央—若佐中央 米 — 米 3 5 3 ha	磷酸，加里の増施	熔成磷肥の併用指導	
健苗の育成	同 上	苗床技術の高揚	指導の徹底	

② その他

気象的災害をうける可能性の強い年は特にこれを回避しまたは軽減するため、品種の選定、健苗の育成、初期生育の促進を図るための施肥改善、水管理に特段の留意が必要である。

区画拡大実施の場合、局部的に分布する礫層の浅いところは表土処理の必要があるが、一般的には表土処理の必要性は低い。

〔 中園南保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	1 3	中 園 南 — 中 園 南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

武士川流域に分布する面積狭少な河床型水田土壌で、礫層甚だ浅く作土直下より礫層になっている場合がある。地下水位高く排水不良を呈し、磷酸，加里がやや少い。

稲作限界地帯に位置し、初夏，盛夏にしばしば低温に見まわれて初期生育の遅延或いは減数分裂期に障害をうける。更に初霜が早い等気象的災害が多い。

② 営農の方向，その他

水稲耕作並びに畑作が行われているが、安全確収と経営経済の安定化を図るため畜産を加味する等経営の充実が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類型式数量等	備考
排 水	中園南—中園南 1 3 ha	明渠排水，暗渠排水の 完備	素焼土管，塩ビパイプ 工事費の助成	
客 土	同 上	作土層を厚くするため 客土	事業費の助成	
施肥合理化	同 上	磷酸，加里の増肥	指 導	

② その他

気象的災害をうける可能性が強いからこれを回避または軽減するため品種の選定，健苗育成，初期生育の促進等を図るため施肥改善，水管理等に特段の留意が必要である。

区画拡大の場合は礫層が極く浅いため表土処理の必要がある。

(畑)

〔 仁倉南保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	155	仁倉南 - 仁倉南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質を母材とする台地土壌で，台地上部の平坦面は下層が堅密であるが透水が著しく妨げられる程ではなく排水中庸もしくは軽度の排水不良を呈する。磷酸，加里がやや乏しく，腐植をやや多く含むがその有効性は比較的低い。波状性緩傾斜または傾斜を呈し水蝕発生のおそれの一部ある。

② 営農の方向，その他

穀菽経営，混同経営が行われているが有機物施用，水蝕防止等を加味して行くことが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類，型式，数量等	備考
保全耕作	仁倉南 - 仁倉南 155 ha	等高線栽培 牧草作付	指導 家畜の導入	
有機物施用	同上	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進	畜産振興助成
施肥合理化	同上	磷酸，加里の増施	熔成磷酸の併用指導	

〔 若里保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	2,510	知来東 - 知来東，富丘 - 富丘，浜佐呂間 - 浜佐呂間，岐阜 - 岐阜，共立 - 共立，富武士 - 富武士，若里 - 若里

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩，頁岩，凝灰質等を母材とする台地土壌である。土性細粒質で地表下 30 ~ 50 cmからは半角，

円礫を混ざる堅密未風化な層で不透水層となつている。このため透水不良を呈し、春季融雪融凍時或いは降雨時には不透水層上部に停滞水を生じて一時的に排水不良を呈している。その程度は地形によつて異り傾斜のやや急なところは一時的湿性の程度が軽く、略々平坦なところは湿性の程度が甚だしい。

一般に腐植にやや乏しく、磷酸、加里が少い。土壤は乾燥すると固結し易く碎土に困難性を伴い、乾燥期には一時的に干魃気味になる場合もある。

地形は幹傾斜を呈する場合が多く水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向，その他

混同経営が行われているが、有機物施用、水蝕防止、牧草栽培等の事項を経営に充分加味することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類，型式，数量等	備考
排水	知来東-知来東 富丘-富丘 浜佐呂間-浜佐呂間 岐阜-岐阜 共立-共立 富武士-富武士 若里-若里 2,510 ha	暗渠排水の完備	素焼土管，塩ビパイ プ工事費の助成	
心土破碎	同上	50～60cmまで心 土破碎	大型機械の使用 工事費の助成	暗渠排水と 併用する
有機物施用	同上	堆厩肥施用 緑肥作物栽培	家畜の導入推進 指導	畜産の振興 助成
保全耕作	同上	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草栽培	指導	
施肥合理化	同上	磷酸，加里の増施 一部石灰施用	指導	

(大成保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	278	大成 - 大成， 豊里 - 豊里

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

① 砂岩、頁岩を母材とする台地土壤で、土性細粒質で粘着性強く、下部は堅密となつているため透水が悪く排水不良を呈する。腐植含量中庸であるが、有機物施用の必要性が認められ、磷酸、加里が少い。

地形は緩傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向、その他

混同経営が主に行われているが、有機物施用、気象条件の裂悪さから更に有畜経営を推進すべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	大成 - 大成 豊里 - 豊里 278ha	明渠，暗渠排水の完備	素焼土管，塩ビパイプ 工事費の助成	
保全耕作	同上	等高線栽培	指導	
有機物施用	同上	堆厩肥の施用 緑肥作物栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成
施肥合理化	同上	磷酸，加里の増肥	指導	

〔 知来北保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	74	知来北 - 知来北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質砂岩を主母材とする台地土壤で、土性細粒質で粘着性強く下部はやや堅密となるが透水性中庸～やや悪く、一般に過湿、過干のおそれは少いが一部やや排水不良を呈するところもある。腐植にやや乏しく磷酸、加里がやや少い。標高比較的高く傾斜地が多いため水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向、その他

混同経営が行われているが、有機物施用、水蝕防止の見地から更に有畜経営を発展せしめることが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	知来北 - 知来北 74 ha	等高線栽培，緑作帯の設置，牧草作付	指 導	
有機物施用	同 上	堆厩肥施用，緑肥作物栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成
施肥合理化	同 上	磷酸，加里の増施	指 導	
一部排水	同 上	暗渠排水を軽度に設置	工事費の助成	

〔 知来中央保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	790	仁倉川-仁倉川，知来中央-知来中央，富岡南-富丘南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

佐呂間別川流域の沖積土で，砂岩，赤色珪岩等を主母材とし，土性中粒質で地表下 50～70 cm 以下は砂層または礫層になっている良好な土壌である。腐植に乏しいが，各種養分含量は比較的よい。

② 営農の方向，その他

穀菽，混同経営が行われているが有機物施用の面から更に有畜化を推進し，また集約化を図るべきである。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	仁倉川-仁倉川 知来中央-知来中央 富丘南-富丘南 790 ha	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成
深 耕	同 上	有機物を施用しながら 漸次深耕する	指 導	

〔 仁 倉 保 全 対 策 地 区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	147	佐呂間西 - 佐呂間西 瑞穂南 - 瑞穂南 仁倉 - 仁倉

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

佐呂間別川流域に分布する沖積土で、軽度の排水不良を呈するが、腐植に乏しいことを除いては養分含量比較的高くやや良好な土壌である。

② 営農の方向、その他

混同経営が行われている。有機物施用を経営に加味して行くことが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 考
排 水	佐呂間西 - 佐呂間西 瑞穂南 - 瑞穂南 仁 倉 - 仁 倉 147ha	軽度の暗渠排水、明渠 排水の実施	素焼土管、塩ビパイプ 工事費の助成	
有機物施用	同 上	堆肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進指導	畜産の振興助 成
深 耕	同 上	有機物を施用して漸次 深耕	指 導	

〔 佐 呂 間 中 央 保 全 対 策 地 区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	461	知来西 - 知来西 佐呂間中央 - 佐呂間中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

佐呂間別川流域に分布する、砂岩、珪岩風化物を主母材とする沖積土で、極く新しい堆積のため腐植に乏しく、礫層が極く浅く、地表から円礫を含み、部分的に地表から礫が頗る多い礫質地が存在し、一部過干のおそれがある。

② 営農の方向、その他

経営上有機物施用を考慮することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備考
有機物施用	知来西-知来西 佐呂間中央-佐呂間中央 461ha	堆厩肥施用 緑肥作物栽培	家畜の導入推進指導	畜産の振興助成
深耕	同上	有機物を施用して漸次深耕	指導	
一部客土	同上	礫質地は 植質土の客入		

〔 床丹保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	358	仁倉北-仁倉北 床丹-床丹 仁倉西-仁倉西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

佐呂間別川流域の低湿地で一部泥炭を含む。地下水の影響強く排水不良を呈し、酸性を呈し燐酸、加里に乏しい。

② 営農の方向, その他

混同経営が主に営まれているが、気象条件, 土壌条件等から更に有畜化を推進することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備考
排水	仁倉北-仁倉北 床丹-床丹 仁倉西-仁倉西 358ha	明渠, 暗渠排水の完備	素焼土管, 塩化ビニールパイプ工事費の助成	
酸性矯正	同上	炭カルの施用	炭カル 400~500kg/10a	
施肥合理化	同上	燐酸, 加里の増施	熔成燐肥の併用	指導
有機物施用	仁倉北-仁倉北 床丹-床丹 229ha	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成並びに指導

[中園保全対策地区]

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	375	中 園 - 中 園

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の時題点

① 特徴と問題点

赤色珪岩を主に母材とする扇状堆土で、地表から堅質な半角礫に富み、地表下 50cm内外から礫層になる場合が多い。土性は中粒質～細流質で礫に富み構造やや発達しているため透水は良好であるが、斜面上部からの滲透伏流水によりやや排水不良を呈するところが多い、腐植含量やや低く磷酸、加里がやや少い。傾斜～緩傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向、その他

混同経営が営まれているが、有機物施用、水蝕防止、気象条件等から更に有畜化を図って経営の安定せしめることが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
有機物施用	中 園-中 園 375ha	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成並びに指導
深 耕	同 上	有機物を施用して漸次深耕		指 導
保全耕作	同 上	等高線栽培牧草作付の増大		指 導
施肥合理化	同 上	磷酸、加里の増施		指 導

[佐呂間北保全対策地区]

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡佐呂間町	569	佐呂間北-佐呂間北 幌岩北-幌岩北 瑞穂東-瑞穂東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩その他の岩石を母材とする扇状堆土で、地表から半角礫を含～富み、地表下 30～40 cmからは礫層となり、一般に礫層が浅い。透水良好であるが斜面上部からの伏流水があり一般に過湿、過干のおそれは少ないが、一部は伏流水の影響を強くうけて排水不良を呈するところがある。作土層浅く、有機物がやや少ない。

② 営農の方向、その他

混同経営が行われているが、気象的条件、有機物施用等から更に主畜化を推進することが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	佐呂間北-佐呂間北 幌岩北-幌岩北 瑞穂東-瑞穂東 569ha	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成並びに指導
深耕	同上	有機物を施用して漸次深耕する		指導
保全耕作	同上	等高線栽培 牧草作付の増大		指導

4 土壤調査成績一覽表

1) 土壤分析成績

(水 田)

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性														
					礫 (風 乾 物 中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における理 学性 100 CC 溶中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %	
																			H ₂ O
若 佐 南 保 全 区	若 佐 南 10B	若 10B	1	0~15		3.0	4.1	7.9	31.0	38.9	37.4	23.7	CL						61
			2	15~33		3.4	0.7	8.3	29.3	37.6	37.9	24.5	CL						56
			3	33~42		0.4	-	8.8	29.3	37.6	37.9	24.5	CL						55
若 佐 中 央 保 全 区	若 佐 中 央 26	若 26	1	0~12		2.6	4.1	7.0	20.9	27.9	37.7	34.4	LiC						55
			2	12~30		2.1	1.7	3.6	11.8	15.4	43.4	41.2	LiC						51
			3	30~43		0.7	-	2.2	8.7	10.9	51.0	38.1	SiC						50
若 佐 中 央 保 全 区	若 佐 中 央 26B	若 26B	1	0~18		3.7	6.6	2.1	20.1	22.2	37.3	40.5	LiC						58
			2	18~35		4.0	2.5	1.5	6.5	8.0	27.6	64.4	HC						55
			3	35~60		2.0	-	2.3	14.9	17.2	44.2	38.6	LiC						51
			4	60~		1.6	-	3.2	21.8	25.0	41.6	33.4	LiC						57
中 園 南 保 全 区	中 園 南	土 3	1	0~10		1.5	9.5	2.7	19.1	21.8	28.8	49.5	HC						59

化 学 土																
pH	置換酸 度 Y ₁	有 機 物			塩置換容 基量 me/100g	置換性塩基 ^{mg} /100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係 数	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発生量		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	濕 土	P ₂ O ₅	N	
50	05	237	023	10	127	115.1	31.0	11.0	323	680					49	
45	62	038	006	7	288	561.1	29.6	11.5	694	666					tr	
45	98	-	-	-	171	2159	1006	67	450	640					tr	
43	70	240	024	10	218	275.6	43.7	163	450	1,030					74	
41	258	096	010	10	168	1388	38.3	10.6	298	1,020					tr	
3.9	403	-	-	-	196	283.8	1048	8.6	51.5	929					tr	
53	10	381	038	10	328	367.3	81.0	11.9	399	1,120	13.6	20.6	7.0	7.1	20.6	122
44	221	1.45	023	6	41.8	379.9	36.65	13.9	324	1,475	0	1.4	1.4	4.6	1.4	1.97
42	120	-	-	-	299	243.1	133.7	6.7	290	938	-	-	-	-	-	-
49	20	-	-	-	324	320.5	248.2	8.2	353	1,120	-	-	-	-	-	-
49	150	551	056	10	336	479.5	1230	268	508	1,396						

(畑)

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					礫 (風乾物中) %	風 乾 土 中		細土無機物中					土 性	現地における理学性 100cc 溶中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
仁 倉 南 保 区	仁 倉 南	佐 11	1	0~15	41	53	49	35.1	40.0	263	337	LiC						
			2	15~88	22	1.1	58	27.9	33.7	334	329	LiC						
			3	28~65	32	-	40	39.6	43.6	293	271	LiC						
若 里 保 全 对 策 地 区	知 来 東	佐 24	1	0~18	1.3	3.4	102	34.1	44.3	308	249	CL	950	332	284	384	668	
			2	18~33	1.7	1.0	13.1	30.1	43.2	293	275	LiC	1296	473	32.1	20.6	527	
			3	33~	1.2	-	145	27.8	42.3	332	245	CL	1678	638	283	7.9	362	
	富 丘	佐 10	1	0~25	24	84	64	31.9	383	356	261	LiC						
			2	25~45	20	0.9	9.6	28.0	37.6	39.2	232	CL						
			3	45~	24	-	107	38.8	49.5	243	262	LiC						
知 来 北 保 区	知 来 北	佐 4	1	0~15	36	64	85	43.8	52.3	379	98	L						
			2	15~33	37	1.9	10.4	29.0	39.4	39.1	21.5	CL						
			3	33~60	47	0.7	7.0	21.4	28.4	31.2	40.4	LiC						
大 成 策 地 区	豊 里	若 15	1	0~17	30	66	11.4	26.3	37.7	328	295	LiC						
			2	17~33	27	1.5	13.0	31.0	44.0	32.5	235	CL						
			3	33~55	28	-	-	-	-	-	-	-						
若 里 保 全 对 策 地 区	浜 佐 呂 間 (常呂)	佐 24	1	0~19	1.3	4.8	53	33.6	38.9	404	207	CL	87.1	340	485	17.5	660	
			2	19~32	1.7	-	83	18.6	26.9	45.4	27.7	SiC	1430	528	332	14.0	47.2	
			3	32~45	1.2	-	51	18.0	23.1	32.4	44.5	LiC	1420	542	348	11.0	45.8	
	岐 阜 (常呂)	佐 26	1	0~24	1.4	8.0	7.0	20.9	27.9	37.7	344	LiC						
			2	24~30	1.3	0.9	3.6	11.8	15.4	43.4	41.2	LiC						
			3	30~45	0.1	-	22	8.7	10.9	51.0	38.1							
	共 立	若 6	1	0~18	1.8	4.7	13.7	27.6	41.3	33.1	25.6	LiC						
			2	18~30	1.8	0.7	15.0	26.2	41.2	38.6	20.2	CL						
	富 武 士	佐 6	1	0~22	1.7	6.4	8.7	32.5	41.2	25.0	33.8	LiC						
			2	22~40	1.8	0.6	16.3	27.1	43.4	29.5	27.1	LiC						
			77B	1	0~20	4.2	6.4	18.8	25.5	44.3	29.5	26.2	LiC					
若 里	若 4	1	0~22	3.3	13.6	2.3	29.2	31.5	32.3	36.2	LiC							
		2	22~35	1.7	1.3	16.8	24.3	41.1	37.0	21.9	CL							
		3	35~	2.5	-	10.9	25.7	36.6	38.6	24.8	CL							

化 学 性																	
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩置 換 容 量 mg/100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 融 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発生量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土 士	湿 土 士	P ₂ O ₅	N	
57	46	1.5	3.08	0.25	12	398	589.4	522	168	528	1,332				46		
54	43	95	0.63	0.08	8	254	1783	359	364	250	1,186				tr		
55	42	113	-	-	-	163	201.3	363	1055	442	1,110				tr		
55	44	20	1.96	0.17	12	148	2447	254	120	493	626				81		
55	44	25	0.55	0.07	8	106	2078	544	609	698	673				tr		
54	43	35	-	-	-	129	1881	948	86	51.9	666				tr		
60	49	05	486	0.36	14	196	221.5	280	187	40.3	2350				49		
54	40	98	0.53	0.05	11	226	430.7	40.9	110	68.1	694				tr		
55	40	73	-	-	-	115	1680	385	82	522	824				tr		
59	54	10	371	0.27	14	250	369.6	58.3	272	528	691				16		
53	42	190	1.10	0.08	14	161	190.4	66.3	71	42.2	707				tr		
52	40	133	0.41	0.03	13	221	1232	72.4	70	19.9	914				tr		
55	45	45	385	0.31	12	204	2164	242	47	441	780				79		
55	43	65	0.86	0.10	9	156	244.3	40.3	66	54.5	720				tr		
55	42	93	-	-	-	196	1923	80.6	118	40.6	-				-		
65	55	05	276	0.19	14	136	3289	288	53	86.3	666				32		
57	44	50	-	-	-	-	-	-	-	-	600				tr		
54	42	85	-	-	-	105	1534	87.3	9.1	52.1	714				tr		
59	50	1.3	466	0.38	12	264	3785	484	184	51.1	1,030				74		
51	39	163	0.51	0.08	7	149	120.6	464	61	28.9	1,020				tr		
53	39	150	-	-	-	253	190.7	1028	108	26.9	929				tr		
56	43	60	270	0.24	11	186	390.6	33.1	125	74.7	796				11.4		
57	41	158	0.43	0.07	6	186	1621	34.9	120	31.2	429				tr		
58	47	1.5	370	0.31	12	179	2305	38.1	158	45.8	1,470				49		
55	44	50	0.62	0.08	8	102	1136	270	110	11.0	526				tr		
54	42	53	373	0.31	12	279	4223	286	19.2	54.1	1,020				100		
53	39	125	0.92	0.12	8	218	3045	865	134	50.0	938				20		
54	45	25	787	0.66	12	400	580.6	855	129	554	989				21		
56	41	103	0.74	0.10	7	229	278.6	5.2	6.7	43.3	755				tr		
55	40	150	-	-	-	290	237.2	5.2	7.2	29.2	680				tr		

(畑)

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性															
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細土中		細土無機物中					土 性	現地における 理学性 100g 溶中						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 時 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %		
	若里	佐34	1	0~20		33	72.4	123	31.6	439	269	292	LiC							
			2	20~35		1.5	0.64	10.4	29.9	403	422	17.5	CL							
大成 策保地 全区	大成	若10D	1	0~16		27	68	61	31.1	372	301	327	LiC							
			2	16~38		2.1	24	11.9	22.3	342	343	31.5	LiC							
			3	38~55		2.3	-	4.7	23.7	284	374	34.2	LiC							
知全 策中 央保 地区	仁倉川	佐43B	1	0~22		2.3	32	7.6	38.0	45.6	26.2	28.2	LiC							
			2	22~35		2.2	1.2	8.9	48.5	57.4	24.3	18.3	CL							
	知来中央	佐49	1	0~23		1.0	22	3.7	40.0	43.7	37.0	19.3	CL	1105	385	343	27.2	61.5		
			2	23~33		2.3	2.7	0.4	28.9	29.3	43.9	26.8	LiC	123.1	47.9	33.4	18.7	52.1		
			3	33~65		2.7	-	4.6	40.9	45.5	37.0	17.5	CL	103.3	36.0	36.2	27.8	64.0		
佐保 呂對 間策 中央 地区	知来西	佐43	1	0~15		2.2	53	13.9	32.4	46.3	26.1	27.6	LiC							
			佐中呂間	若21	1	0~22		4.4	4.1	6.5	21.3	27.8	44.3	27.9	LiC					
			2	22~55		3.5	1.1	27.0	35.3	62.3	20.2	17.5	CL							
仁對 倉策 保地 全区	瑞穂南	若22留邊	1	0~15		2.7	3.9	1.8	18.6	20.4	37.9	41.7	LiC							
			2	15~35		2.7	1.4	0.9	15.8	16.7	42.6	40.7	LiC							
			3	35~		2.6	-	4.3	38.4	42.7	31.5	25.8	LiC							
知全 策中 央保 地区	富丘南	若19B	1	0~19		3.0	3.2	10.1	36.9	47.0	26.0	27.0	LiC							
			2	19~35		1.1	1.1	12.8	50.5	63.3	17.7	19.0	ScL							
			3	35~60		2.1	-	17.7	49.1	66.8	18.7	14.5	SL							
仁對 倉策 保地 全区	仁倉	佐47	1	0~20		2.9	4.2	4.3	30.9	35.2	36.3	28.5	LiC							
			2	20~40		2.5	1.9	4.8	31.6	36.4	35.3	28.5	LiC							
		佐呂間西	若18	1	0~33		1.9	7.0	6.7	23.6	30.3	35.4	34.3	LiC						
			2	33~55		1.6	0.8	0.4	24.0	24.4	48.4	27.2	SiC							
			3	55~		1.0	-	5.7	47.4	53.1	27.4	19.5	CL							
床對 丹策 保地 全区	仁倉北	佐55	1	0~16		3.3	5.2	6.2	26.9	33.1	35.9	31.0	LiC							
			2	16~28		3.1	2.9	3.0	18.9	21.9	41.2	36.9	LiC							
	仁倉西	LP9	1	0~13		5.6	25.1	5.8	32.8	38.6	31.7	29.7	LiC							
			2	13~35		8.6	60.5	-	-	-	-	-	泥炭							
			3	35~60		8.0	-	-	-	-	-	-	泥炭							

性 学 化																	
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 基 量 me/100g	置換性塩基 ^{mg} /100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 發生量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鐵 %
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土 土	濕 土 土	P ₂ O ₅	N	
5.7	5.0	21	419	0.32	13	31.4	4868	855	129	554	989				6.6		
5.8	4.4	2.0	0.38	0.05	8	18.1	1850	804	28	345	420				tr		
6.0	5.5	0.5	3.97	0.41	10	37.4	5468	50	1.4	52.1	840				5.1		
5.4	4.1	9.8	1.37	0.18	8	25.6	2046	202	tr	285	674				2.0		
5.3	4.0	15.3	-	-	-	22.0	199.1	528	1.4	32.3	655				tr		
6.2	5.2	0.3	1.86	0.23	8	31.9	7285	923	32.6	81.5	1,140				28.7		
6.6	5.2	0.5	0.68	0.10	7	28.4	655.6	1032	11.5	82.4	1,245				10.2		
6.4	5.6	0.3	1.28	0.19	7	30.0	587.7	534	8.1	69.9	990				27.1		
6.2	5.3	0.3	1.57	0.13	12	36.3	703.5	1548	4.8	69.1	1,225				10.2		
6.1	5.2	0.5	-	-	-	29.7	583.2	524	8.0	70.0	1,090				6.6		
6.5	5.8	0.3	3.11	0.31	10	27.5	730.8	603	28.2	94.9	880				22.1		
7.2	5.8	1.00	2.42	0.27	9	25.2	707.7	21.0	12.5	100.0	777				23.4		
6.1	4.7	1.80	0.63	0.09	7	13.7	272.5	1.77	6.2	70.8	2.64				2.4		
6.1	4.7	2.3	2.27	0.28	8	29.4	681.1	77.2	18.7	82.7	1,070				13.6		
6.5	4.7	1.5	0.81	0.12	7	25.8	573.7	92.7	7.7	79.5	1,090				tr		
6.3	4.5	2.3	-	-	-	20.4	508.6	30.8	6.7	88.7	84.5				tr		
6.2	5.1	0.3	1.87	0.22	9	32.9	614.4	104.0	8.6	66.6	88.6				10.3		
5.9	4.9	2.8	0.65	0.09	7	3.68	425.4	61.1	8.6	41.2	90.9				2.0		
6.0	8.4	2.8	-	-	-	26.1	420.6	5.66	2.9	57.5	89.9				3.3		
6.8	5.8	0.3	2.43	0.22	11	27.2	710.0	80.6	9.22	92.2	88.0				18.8		
6.1	5.2	0.5	1.08	0.12	9	24.6	516.9	100.8	14.1	74.0	44.0				sr		
6.5	5.3	0.3	4.08	0.42	10	36.8	909.6	130.2	17.7	88.2	51.0				sr		
6.0	4.7	2.5	0.47	0.07	7	17.3	297.5	112.1	5.8	61.3	73.5				sr		
5.6	4.3	3.5	-	-	-	16.0	253.5	92.5	4.3	56.3	64.6				sr		
6.2	5.4	0.5	3.04	0.33	9	26.8	584.4	64.9	16.8	77.6	1,235				13.2		
5.9	5.0	1.0	1.70	0.19	9	31.1	561.4	113.9	13.9	64.3	1,420				5.0		
5.7	5.0	0.6	1.46	1.08	14	42.3	-	-	-	93.9	1,480				16.9		
4.3	3.7	10.6	3.63	2.16	17	-	-	-	-	-	1,740				tr		
4.9	4.3	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	700				tr		

2) 土壤分析成績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					礫 (風 乾 中 中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 理 学 性 1 0 0 CC 溶 中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %
床 对 丹 策 保 地 全 区	床 佐 丹	66	1	0~8		0.7	4.6	1.0	25.9	26.9	36.1	37.0	LiC	122.5	45.0	45.7	11.5	55.0
			2	8~35		2.1	1.6	0.2	35.3	35.5	34.9	29.6	LiC	142.5	53.2	38.4	8.4	46.8
			3	35~55		6.9	-	1.1	39.3	40.4	35.5	24.1	CL	127.5	46.9	39.3	13.8	53.1
			4	55~		2.0	-	0.9	23.3	24.2	46.5	29.3	SiC	117.8	42.5	50.8	6.7	57.5
中 園 保 地 全 区	中 園	若 14	1	0~20		4.3	5.3	1.6	27.2	43.6	29.8	26.6	LiC					
			2	20~40		2.7	1.6	3.5	31.5	66.8	17.9	15.3	SoL					
佐 呂 間 北 保 全 对 策 区	佐 呂 間 北	若 17B	1	0~20		2.2	6.1	9.2	25.6	34.8	36.3	28.9	LiC					
			2	20~40		1.2	1.2	11.9	31.3	43.2	35.8	21.0	CL					
	若 28	1	0~20		3.8	5.4	8.6	39.7	48.3	29.0	22.7	CL						
		2	20~30		4.0	5.6	7.7	37.6	45.3	18.6	36.1	LiC						
	幌 岩 北	佐 14	1	0~15		3.8	7.2	1.6	23.4	39.9	31.3	28.8	LiC					
			2	15~30		3.1	2.1	1.6	19.9	36.0	38.2	25.8	LiC					
	瑞 穂 東	留 辺 若 28	1	0~14		1.2	4.2	1.9	37.2	56.7	26.0	17.3	CL					
			2	14~35		0.3	0.9	1.9	40.8	60.1	24.9	15.0	CL					

化 学 生																
p H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩置 換 容 基 量 mg/100g	置換性塩基 ^{mg/100g}			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃ NH ₃ -N 發生量		有 効 態 mg/100g	
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N
5.6	4.3	17.5	2.69	0.26	10	21.3	1545	857	259	258	868				tr	
5.5	3.8	20.5	0.90	0.12	8	20.6	1781	948	144	31.1	816				tr	
5.3	4.1	26.8	-	-	-	20.6	1548	139.1	11.5	26.7	929				2.0	
5.6	4.2	5.0	-	-	-	23.0	184.8	140.7	14.4	28.7	91.8				2.0	
5.8	4.5	2.3	3.07	0.32	10	25.7	462.7	3.39	8.6	64.2	1,030				5.0	
6.0	4.6	1.8	0.90	0.11	8	25.0	415.8	6.69	0	59.2	1,235				2.1	
6.0	5.0	0.8	3.53	0.33	11	23.3	441.9	3.83	20.1	67.8	85.6				9.4	
5.6	4.5	3.5	0.71	0.96	7	17.3	282.4	8.69	21.4	58.4	84.9				2.0	
6.6	6.0	0.3	3.13	0.28	11	23.0	64.6	24.8	26.8	100.0	9.60				-	
6.5	5.3	0.3	3.25	0.29	11	18.3	389.2	3.48	4.4	76.0	7.20				-	
5.9	5.4	2.0	4.18	0.30	14	23.3	581.6	8.44	2.68	0.6	7.29				9.2	
5.8	4.5	6.0	1.22	0.10	12	16.7	285.6	6.83	1.80	0.2	5.76				1.6	
5.9	4.7	1.3	2.45	0.23	11	21.4	501.1	50.6	0.6	83.6	6.87				23.9	
5.8	4.3	3.8	0.61	0.08	8	18.1	220.1	168.3	0.6	43.4	7.20				tr	